

**みんな集まれ！**  
**中東遠圏域・「ぼうさい」**  
**検討会**  
**報告書**

**日時:平成 30 年 10 月 20 日(土) 13:00～16:00**

**開催場所:(福)福浜会 あにまあと**

**主催:中東遠圏域自立支援協議会・重心部会**



# みんな集まれ!中東遠圏域・「ぼうさい」検討会 報告書

## 目 次

1. 巻頭文	4
2. チラシ・講師紹介	5～6
3. 遠藤先生講演資料	7～36
4. 宮本先生講演資料	37～65
5. 岡村さん実践報告資料	66～71
6. 八木さん実践報告資料	72～76
7. 当日記録	77～90
8. 事前アンケート集計	91～95
9. 参加申込書アンケート集計	96～97
10. 参加者内訳・当日アンケート集計	98～103
11. 開催までの活動記録	104～105

～貴重な資料の提供に快く同意して下さった皆様に感謝申し上げます～

### 第3回「みんなあつまれ！わくわく生活検討会」を終えて

中東遠自立支援協議会重心部会長 白井眞美  
(磐田市立総合病院小児科)

3回目を迎えた本会ですが、今回は、当事者も家族も「わくわく」楽しめる交流会と当事者や家族が生活するうえで考えなければならない問題点を議論する「検討会」に分けて開催することになりました。

「わくわく」の部はボウリング大会とお食事交流会を開催しました。台風で一度流れてしまうというハプニングもありましたが、今年の夏は酷暑だったし、かえってよかったかもしれません。天候のこと、駐車スペースのこと、車からの乗り降り、会場内での移動、音の問題、考えることはたくさんありましたが、それを乗り越えて皆で楽しい時間を過ごすことができたと思っています。きょうだいも含めてのこども達の笑顔、ここぞとばかりに活躍されるお父さんなど、楽しそうな家族の姿を見られて、私も暖かい気持ちになりました。準備をしてくださった事務局の方々、ボランティアで参加してくださった学校の先生方、本当にありがとうございました。

また、10月20日に開催した「生活検討会」は以前から話題になっていた「防災について」がテーマでした。浜松市のみらい TALK の活動として「サバイバルキャンプ」を毎年開催されている浜松医療センター小児科の宮本健先生にその具体的な活動内容を。また友愛の里診療所の遠藤雄策先生から東日本大震災後に関心が高まった障がい者の防災対策についての解説をお聞きしました。今年の夏は、豪雨災害、北海道の大地震など災害が相次いだこと、また10月1日には台風24号通過の影響による静岡県下広域大規模停電もあり、より現実的な問題として皆がとらえることができたと思っています。

志太榛原地域から行政の取り組みについてもお話いただき、自治体によって異なる点も意識することができました。

最後の議論のところでは、御家族に停電時をどうしのいだけか体験談をお聞きしたり、当事者が抱えている不安や今後すぐにでも実行していかなければならない防災計画についてもご意見をうかがうことができました。ふりかえるととても充実した時間を過ごすことができたと思います。

重心部会としての活動は、この「わくわく生活検討会」だけではもちろんありません。今後も地域で暮らす方々をつなぐ活動ができるように続けて頑張っていきたいと思っています。

皆さん、どしどし御意見をお寄せください。



みんな集まれ!



# 中東遠圏域・「ぼうさい」検討会

今年度、当事者の方・支援者…皆で一緒に考える場を作ろう!と、準備を進めてきました。

「わくわくボウリング」も無事に終わり、さあ、「検討」の機会です!

圏域重心部会・検討部(仮称)、今回のテーマは「ぼうさい」。

どれだけ考えても…準備をしても、尽きることのないテーマです。

近隣地域の取組みを伺う中で、この中東遠圏域の現状を確認し、みんなで話し合しましょう!

ご本人、ご兄弟姉妹、ご両親と一緒にの参加大歓迎!

多数の皆様のご参加をお待ちしています!

**日時:平成 30 年 10 月 20 日(土) 13:00~16:00**

**(12:30~受付)**



**場所: (福)福浜会 あにまあと**

**〒437-1211 静岡県磐田市大原2879-2**

**13:00~ 開会**

**13:10~ 講演「防災に関する浜松での取組み」**

講師:はままつ友愛のさと・遠藤 Dr.、浜松医療センター・宮本 Dr.

みらい talk さんが企画・実施している「サバイバルキャンプ&ワークショップ」のメンバーとして活躍されている、遠藤先生・宮本先生による講演です。取組みを通じて見えてきたことを教えてもらいましょう!

**14:25~ 休憩…利用者の方のお楽しみ、も、あるかもね!? ヒント:き・ら・き・ら!?**

**14:45~ 「志太榛原圏域の取組みを聞き、この地域を考えよう」**

報告:志太榛原圏域スーパーバイザー・岡村さん、焼津福祉会・八木さん

ファシリテーター:白井 Dr.

隣接する志太榛原圏域でも、昨年度までに防災対策と支援について「公開ネットワーク会議」で報告し、圏域内で共有してきました。これまでの課題や気づきを元に、遠藤先生・宮本先生にも参加していただきながら…「この中東遠圏域で出来ること」をみんなで!考えあいましょう!

**16:00 閉会**

会場準備の都合で、事前申込とさせていただきます。別紙申込用紙にご記入の上、10月5日(金)までにお申込みください!

(でも…当日の飛び込み参加も歓迎です!申し込みされてのキャンセルもお受けします。)

お問い合わせ先:

はまぼう(担当:高橋・片岡・伊藤)

TEL:0538-58-2362 FAX:0538-58-2364

Email: hamabou4396@sirius.ocn.ne.jp

ぴのほーぷ(担当:松下・長坂)

TEL:0537-29-5858 FAX:0537-23-8100

Email: pinohope@feel.ocn.ne.jp

## 講演者・実践報告者・ファシリテーターの皆さんです!

**遠藤 雄策先生**（講演者、浜松市発達医療総合福祉センター）

2008年より、小児科・小児神経科医として浜松市発達医療総合福祉センターに勤務されています。

一般社団法人みらい TALK で 2013 年から年 1 回、障がいを持つ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップを開催されています。その他、生活困窮家庭の子どもたちの学習・生活支援事業を 2016 年から週 1 回、浜松市内で開催される等、様々な試みを実践されています！

**宮本 健先生**（講演者、浜松医療センター）

1994 年浜松医科大学卒業、2012 年から浜松医療センターに小児科・小児神経科医として勤務されています。

一般社団法人みらい TALK で 2013 年から年 1 回、障がいを持つ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップを開催されています。

**岡村 伶さん**（実践報告者、志太榛原圏域スーパーバイザー）

島田市にある福祉型障害児入所施設駿遠学園に勤務、子どもたちの暮らし方・働き方支援に携わられています。

2017 年（昨年度）より、志太榛原圏域スーパーバイザーを引き継ぎ、4 市 2 町の地域自立支援協議会へ参画をしながら、圏域における障害児者支援を推進しています。

**八木 史博さん**（実践報告者、(福)焼津福祉会 ゆたか）

焼津市重症心身障がい児者専門部会部会長、圏域重症心身障がい児者支援専門部会副部会長。

(福)焼津福祉会入職以降、障がい者入所支援や生活介護事業所など経て、現在は、重症心身障がい者の方々の支援をされています。焼津市、圏域の部会では防災対策について検討をされています。

**白井 眞美先生**（ファシリテーター、磐田市立総合病院小児科医・中東遠圏域自立支援協議会重心部会部会長）

総合病院の小児科医として様々な状態像の方を診察され、ご家族との「つながり」を大切にされてきた白井先生。重症心身障がいの方が過ごしやすい中東遠圏域を作っていく為、今日も活躍されています。

# 医療的ケア児の 防災に関する課題とその対策

## 「障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ & 防災ワークショップ」

2018年10月20日(土)

@中東遠部会

一般社団法人みらいTALK

遠藤雄策

## “みらいTALK” とは？

### 沿革

障がいの有無や家庭環境に関わらず、浜松市及び近隣の地域に住む全ての子どもにとってより良い未来、地域社会を築くことを目的とし、子どもに関わる多職種（医師、保健師、臨床心理士、保育士、弁護士、教員、相談員、スクールソーシャルワーカーなど）が集まり、2009年5月より“子どものより良い未来を創る会”として活動を開始しました。

2009年5月“子どものより良い未来を創る会”として活動を開始、勉強会・講演会開催

2013年4月“みらいTALK”に改称

2013年～“障がいを持つ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ”を開始 毎年1回開催

2014年10月～2015年3月静岡新聞ぶれ連載（連載テーマ“障がい”“外国籍”“しつけ”“メディア”“貧困”“防災”）

2015年～“生活困窮家庭支援プロジェクト”を開始

2016年4月法人化“一般社団法人みらいTALK”に改称

2016年11月～“学習支援事業 JUICE CLASS”を開始 月3～4回開催

### 募集中

#### 正会員

当会の主旨にご賛同いただき会の運営に携わっていただける個人（議決権あり）

年会費 3000円

#### 賛助会員

当会の主旨にご賛同いただき事業資金の支援をいただける個人・企業等

一口 10000円

#### 寄付

当会の主旨にご賛同いただき事業資金・物品等の支援をいただける個人・企業等

#### ボランティア

当会の主旨にご賛同いただき当会の事業に携わっていただける個人・企業等

#### <申し込み方法>

下記の①～⑥をご記入の上、下のメールアドレスまでご連絡ください

①申し込み内容（正会員、賛助会員、寄付、ボランティア）  
②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤ご所属や職種 ⑥メールアドレス

申込先：E-mail [miraitalkhamamatsu@gmail.com](mailto:miraitalkhamamatsu@gmail.com)

振込先：浜松信用金庫 駅南支店 普通 2088022

一般社団法人 みらいTALK

Home Page <http://miraitalk.net/>

Blog <http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv/>

Face Book <https://www.facebook.com/miraitalk/>

会長 平野浩一

理事 村山恵子・宮本健

子どもと家族 そしてそこに関わる人々の  
みらいを



一般社団法人  
みらいTALK

つなげる  
ささえる  
しらべる  
ひろげる

Since 2009

# “みらいTALK”とは？

**学習支援事業**  
**子どもの生活・学習支援事業**  
**JUICE CLASS**  
 2016年より月3～4回開催

みらいTALKでは、以下の2つの型の学習支援事業を行なっています

①アウトリーチ型（家庭教師型）②通所型（塾型）

子どもの教育にお金を払えないのに、親は車や携帯電話を持っているのか？という疑問があるかもしれません。親か子どもに関わる時間を確保できない生活を送る家庭にとって、携帯電話やゲームは、一般的な家庭よりも必須ツールなのです。家賃の滞納が即退去に繋がる、欠勤が即退職に繋がる・・・せりせりの生活を送る親は、地域からも孤立し、子どもへの長期的視点を持つことが難しい状況にあります。しかし、子どもが健康に成長するには、おとなからの経済的・精神的な支えが必要です。

乳幼児健診の未受診、幼児期からのう蝕、肥満、受診の遅れ、学習不振、不登校などは、生活困窮が原因のひとつとされています。日々出会う子どもたちの中にも、生活困窮の背景があるかもしれません。

子どもたちが希望を持って生きることが、個人の課題のみならず、社会の安定、経済成長にも繋がります。ぜひご支援をお願いします。

信頼できる身近な大人として大学生ボランティアが学習支援を担当。社会人ボランティアが食事提供などの後方支援を担当しています

ひとり親家庭なども多く自己送迎が難しい家庭が多いため、送迎を行っています

食事を十分に食べることができない子どももいるため、食事の提供も行っています

**JUICE CLASS**  
**特徴（強み）**

- ① 通所あり
- ② 食事提供あり
- ③ 大学生ボランティアが子ども毎ペア担当制
- ④ SSW、CWからの紹介制
- ⑤ 大学生ボランティア主催のイベント
- ⑥ 専門職が講師となって講義・勉強会
- ⑦ アウトリーチ型で不登校やひきこもりの児童・生徒にもアプローチ可能
- ⑧ 専門職が子ども、家族、ボランティアをバックアップ

**みらいTALK**  
 3つの事業

子どもの生活・  
**学習支援事業**

障がいをもつ  
 子どもと家族のための  
**防災支援事業**

子どもに関わる  
 勉強会、講演会等  
**啓発事業**

**JuiceClassの夜**  
 18:00 子どもの生活困窮相談窓口  
 大学生ボランティア、学習支援講師、社会人ボランティア、専門職、家族など

18:30 子どもの生活困窮相談窓口、学習支援講師

19:30 勉強会

20:00 子どもの生活困窮相談窓口  
 大学生ボランティア、専門職、家族など

21:00 終了

**障がいをもつ子どもと家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ**  
 9月23日(土)～24日(日)開催  
 岩手県立西宮特別支援学校  
 会場：岩手県立西宮特別支援学校  
 対象：障がいをもつ子どもと家族（保護者）  
 定員：20名程度  
 費用：無料  
 申し込み：9月15日（木）まで  
 申し込み先：みらいTALK事務局  
 申し込み電話：019-651-1111  
 申し込みメール：miraitalk@iwate-u.ac.jp

**防災支援事業**  
**障がいをもつ子どもと家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ**  
 2013年より年1回開催  
 福祉避難所に1泊2日宿泊体験

災害時に最も弱い立場となる発達障害、知的障害、身体障害、在宅医療ケアなど様々な配慮を必要とする子どもと家族が電気・ガス・水道が途絶えた状況の福祉避難所を体験、災害時に役立つワークショップなどを体験し、災害時にどのような備えが必要か？どう行動するべきか？学ぶ機会を提供しています。

これまでの活動から得たノウハウを社会や行政などに向けて発信しています。障がいをもつ子どもと家族の防災意識の向上、福祉避難所体験マニュアル作成、避難所にあるもののできる遊びブックレット作成などを行なっています。

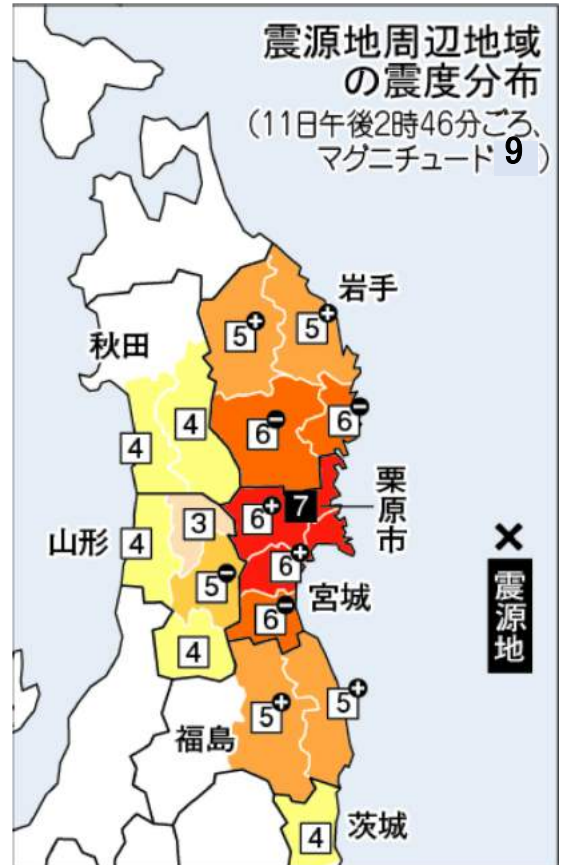
## 災害が起こったらどうなる？

- 元東北大学小児科准教授で現在あおぞら診療所ほっこり仙台院長の田中総一郎先生のスライドから学びましょう



### 3. 1 1 東日本大震災

- 2011年3月11日14時46分  
東日本大震災 三陸沖震源 M9.0  
死者・行方不明者  
全国 **18,550人**(3月11日警視庁)  
災害関連死 2303人  
(平成24年9月復興庁)  
避難者 315,196人  
(2月7日復興庁)



### 東日本大震災の医療現場

- 巨大地震の場合、早期から外傷と挫滅症候群が重症の多くを占める  
(阪神大震災では外傷と挫滅症候群で44.5%、このうち75%が震災後3日以内に入院している)
- 東日本大震災では、溺死90.5%、圧死4.5%、焼死1%  
(そのほとんどが津波被害によるものであった)
- 石巻市の救急車17台のうち、12台が帰って来なかった



### 東北3県沿岸部31自治体

	障害者		一般
	死者(人)	死亡率(%)	死亡率(%)
岩手	436	3.3	2.2
宮城	1103	1.6	0.6
福島	116	0.4	0.5
合計	1655	1.5	0.8

2倍

# 河北新報

9月24日(月)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28  
(郵便番号 980-8660)

「東」は、未来



電話 (022) 211

読者相談室 1447

報道部1127 販売部1304

スポーツ部1130 営業部1318

夕刊編集部1146 営業管理部1312

生活文化部1132 事業部1332

総合案内 (022) 211-1111

ご購読申し込みは  
0120-09-3746

## 3県障害者1655人犠牲 手帳所持者死亡率1.5% 全住民の2倍

岩手、宮城、福島3県で障害者手帳所持者1655人が東日本大震災の犠牲となったことが、各県の調査などで分かった。障害者手帳の所持者全体に占める死亡率は1.5%で、全住民の死亡率(0.8%)の2倍近くに及んだ。災害時に障害者を社会でどう支えるのが、重い課題が浮き彫りになった。(門田一徳、西村悠里)

### 焦点

東日本大震災

(全住民死亡率2.2%) 沼市の137人、宮城県で、宮城1.6%(同0.6%)、福島0.4%(同0.5%)だった。被害の大きかった宮城を障害別にみると、肢体のは15.6%の宮城県女不自由519人、聴覚障川町と12.6%の南三陸町2町。全住民の死亡害75人、視覚障害69人

障害者の被害は一般の2倍に及んだ

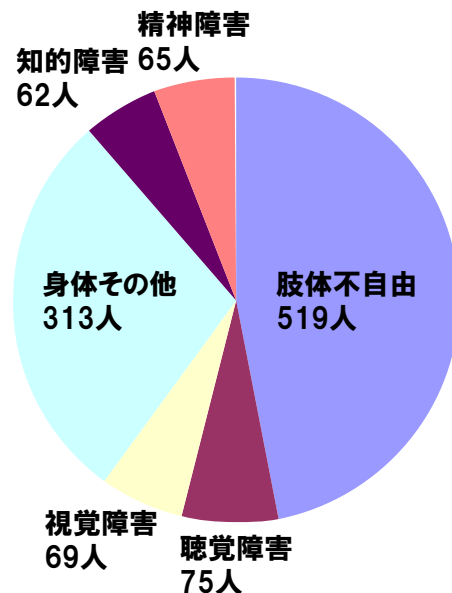
### 東北3県沿岸部31自治体

被害者数の割合 一般0.8%  
障害児者1.5%

大津波から逃げ遅れた方が多い

障害児者を津波被害から守る避難支援の方策が機能しなかった

### 宮城県1103人の内訳



亡くなった人、生き残った私たち、障がいのある人もない人も  
共通の願いはただひとつ

- 生きて **生きのびて**
1. 災害からなんとしても逃げのびて
  2. 安全に過ごせる場所を確保して
  3. どんな備えをしたらよいか
  4. それでも困ったときは・・・

いま考えなければならないこと、いま発信しなければならないこと

生命が助かった方も、次は生活がたいへん

- ❑ 命綱である、人工呼吸器、在宅酸素、吸引器の**電源の確保**ができなかった
- ❑ 経管栄養、抗てんかん薬などの**医薬品を流失**した
- ❑ 寒さと低体温、慣れない避難所や親戚宅での精神的ストレス  
水や食料の配給に並べないご家族など生活面のたいへんさ

医療面と生活面の両方の支援が不可欠

## 最初の支援 安否確認とニーズの聞き取り

- ❏ 震災後、患者さんとの連絡が取れなくなり、被災地の重症児が無事であるのか、また、どんなことで困っているのか情報がなかなかつかめませんでした。
- ❏ 連絡がとれるようになって安否確認の電話をかけているときは、呼び出しの音がとてもとても長く感じられ、どうかつながってほしい、生きてさえいてくれればと願いながら受話器を握っていました。

### 私たちを支えてくれた言葉 1

災害がほんとうに襲った時 阪神淡路大震災50日間の記録 中井久夫 みすず書房

- ❏ 電話は多くの生き残った人に  
「自分は孤独ではない We are not alone」という感じを与える効果があった。

電話の向こうには医療とつながった安心感が、  
電話のこちらには無事でいてくれた安堵感がありました

## 災害弱者のニーズ 救援物資の要請

---

- ❏ 救援物資は届き始めていましたが、おむつは高齢者または新生児用がほとんどで**障害児の使う中間サイズ(15-35Kg用)**が不足していました
- ❏ おむつは「**大は小を兼ねる**」わけには行かないのですが、正直に言うと、このことに私は気がつきませんでした  
生活目線・福祉目線が足りなかったと反省しています
- ❏ **災害弱者である障害児らのニーズ**は優先されることはなく、また、気付かれることもなく、これらを拾い集めてきめ細かな支援をする必要性を感じました

なぜ、災害弱者なのでしょう

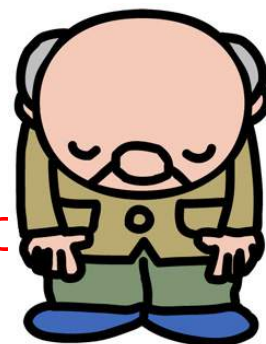
- ニーズが知られていない
- 生活が知られていない

私たちが代弁していかなければ・・・

## 災害弱者のニーズ 救援物資の要請

- 翌日、医療系（蔵王セミナー）と福祉系（医療的ケアネット）のメーリングリストにSOSを求めました
- 全国の医療機関、福祉施設、家族会、企業などから、おむつ、歯ブラシ、おねしょパッド、衣類、おもちゃなどをたくさんの救援物資を送っていただきました

いつ、どこへ、なにを、どんなふう  
に  
本当にありがとうございました



## 救援物資の流れ

初めは全国から仙台まで宅配便など  
輸送する手段がなかったため

- 医療機器企業東京本社へ
- 緊急車両扱いで  
東北自動車道経由 仙台へ
- 仙台から各被災地へ



## 地域でのニーズ収集方法

1) 避難所→各市町村母子担当保健師→県障害福祉課→拓桃

**保健師さんが巡回している各避難所におむつ情報を張り出し、必要な方へ直接渡していく方法**

2) ご家庭→担任→各支援学校→県教育委員会→拓桃

**担任の先生は早いうちから子どもたちの安否と居場所の確認をしていたので、おむつを直接届けていただくことができた**

普段からつながりのあるところ（福祉・企業・行政）が縦割りを越えて助けてくださったことで、この活動が円滑に運んだ

## 私たちを支えてくれた言葉 2

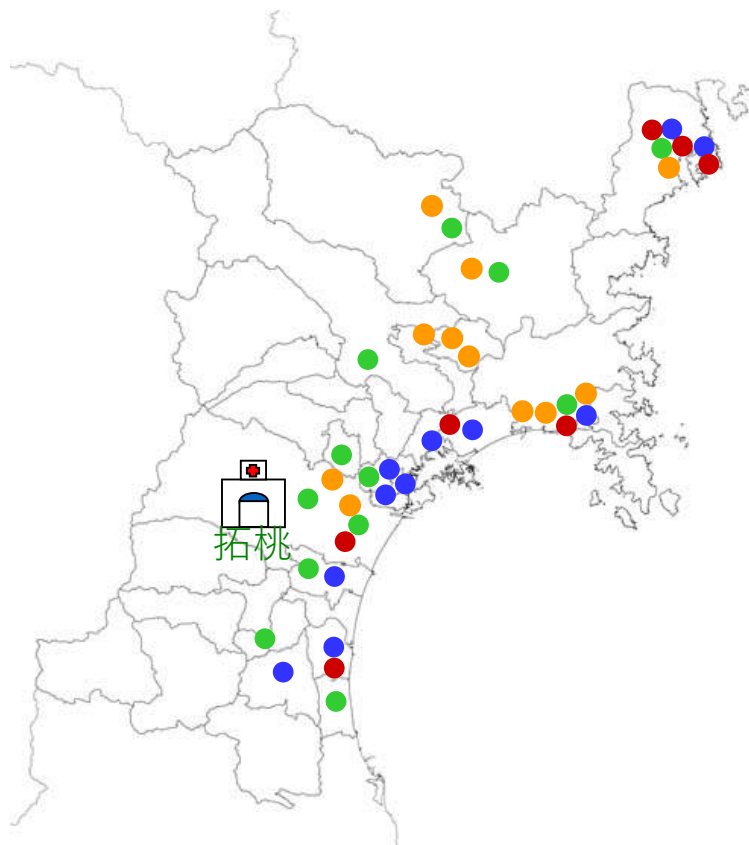
災害がほんとうに襲った時 阪神淡路大震災50日間の記録 中井久夫 みすず書房

📖 日頃、仕事をとおして信頼関係にあるところが実質的な援助を与えてくれた

📖 「ほんとうに信頼できる人間には会う必要がない」「彼は今きっとこうしているはずだ」

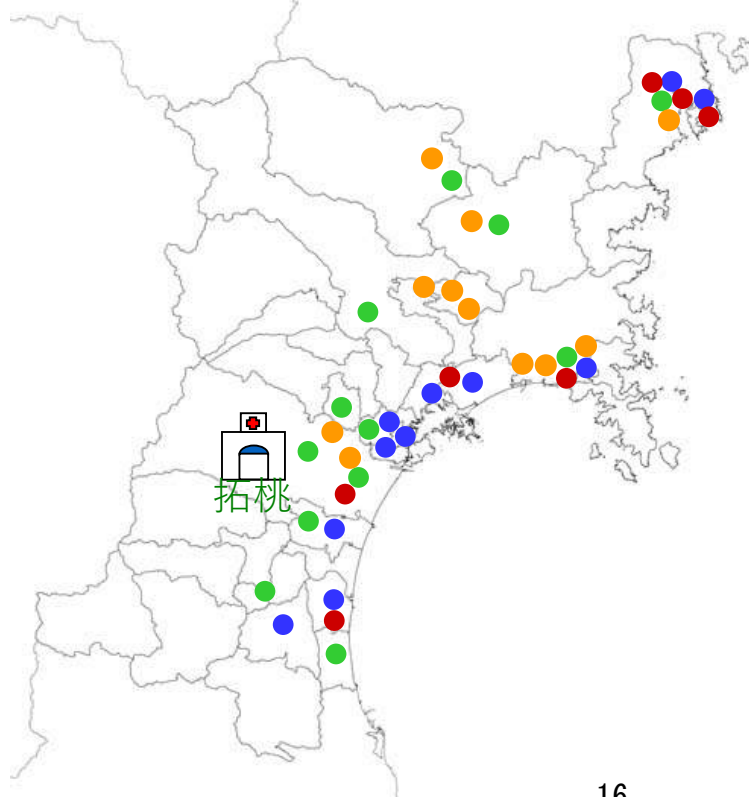
普段からの信頼関係・ネットワークによって  
縦割りを越えた支援が可能に

## 3月24日から4月20日までに直接お届けした



- 支援学校 12校
- 市町村福祉課 10ヶ所
- 避難所・福祉団体 7ヶ所
- 患者さんご自宅 14ヶ所

## 3月24日から4月20日までに直接お届けした 4月下旬からは、各市町村でおむつ助成が再開



- 支援学校 12校
  - 市町村福祉課 10ヶ所
  - 避難所・福祉団体 7ヶ所
  - 患者さんご自宅 14ヶ所
- 合計 43ヶ所



# これからの防災について

- **生活用品・医薬品の備蓄**
- **避難時の支援を確保**
- **避難場所**（福祉避難所）
- **ライフライン対策**（電気・水道・ガス・電話）
- **医療機器電源の確保**（人工呼吸器・酸素・吸引）
- **医薬品の入手**（抗てんかん薬・栄養剤）
- **医療情報の携帯**
- **医療機関との連絡方法**
- **地域支援ネットワーク作り**

# 防災の提言 1

## ご家庭

● 日用品・医薬品の備え（3日分を目安に）

● 医療情報などのメモを常に身につけておく

シロップや散剤などが多く投与量が分かりにくい特性

できれば1週間分 2~3カ所(家と学校とカバン等)くらいに分散できるといいかも？

# 日本小児科学会のヘルプカード

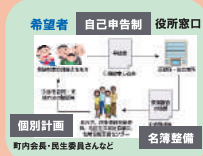
## 医療が必要な子どもたちの防災対策

～急な災害があっても生きのびるために～

1. 災害からなんとしても逃げのびましょう

災害時要援護者情報登録制度に登録しよう

- 乳幼児や障がいのある方、難病の方など避難するときにだれかの手助けが必要な方のごとくへ近所のたがけが助けに来てくれるか決めておける仕組みです
- 自己申告制で役所窓口用紙を提出します
- 申請書に書く内容は・・・  
〔氏名・性別・生年月日・住所・町内会名など〕



2. 安全に暮らせる場所を探しましょう

**指定避難所** まず最初に逃げこむ場所  
近くの公立の小中学校など  
内閣官庁 国民保護ポータルサイト  
<http://www.kokuminhogo.go.jp/hinan/index.html>

**福祉避難所** 要援護者に配慮した避難所  
災害発生後に開設されます  
〇〇市〇〇区 福祉避難所

3. 普段から防災対策を考えましょう

**ヘルプカード** ご家族の連絡先、医療機関などの連絡先、疾患名、お薬情報、薬剤の保管方法、必要な手助け、緊急時の配慮を伝えます

**電源の確保** 自家発電機の選び方、燃料の保存方法、準備物は？

**電気を使わない吸引器** 手動式・足踏式吸引器の選ぶポイントは？

災害時や緊急時に子どもに必要な支援が伝わります

手助けしてほしいこと 好きなこと(遊び・歌・言葉・食べ物など) 苦手なこと(音・触わり方・食べ物など)	あなたの助けが必要です  <b>ヘルプカード</b>  記入日 年 月 日
---	---

## 医療が必要な子どもたちの防災 医療機器

### 自家発電機

**選択のポイント**

(1) 使用する電気機器の容量によって機種を選択します  
 定額機型: 人工呼吸器 60W 医療用冷蔵庫 120W 加湿器 100W 合わせて 280W  
 定額機型: 冷蔵庫 200~400W 冷暖房 200~500W テレビ 150~250W

(2) インバーター増設付きを選びましょう  
 変化した出力が得られます

機種	容量	重量	価格	特徴
おうち用タイプ	1000W	10kg	25,700円	1000W
車中泊用タイプ	2000W	15kg	31,300円	2000W
車載用タイプ	3000W	20kg	39,800円	3000W

※このほか、医療機器の容量から必要な容量を算出する必要があります。容量オーバーの場合は、容量アップキットや増設キットが必要です。

### 電気を使わない吸引器

電気を使わない吸引器を一台用意しておくことで、とどきとどきと呼吸器が壊れるのを防ぐことができます。口圧内25~30kPa、流量内10~20L/minです。[1kg×7.5cm程度]

手動式吸引器	足踏式吸引器	シンジエ吸引器
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手動式吸引器は安静で使いやすいです。</li> <li>● 吸引力の調整が容易です。</li> <li>● 吸引口の交換が容易です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 足踏式吸引器は吸引力が強いです。</li> <li>● 吸引口の交換が容易です。</li> <li>● 吸引力の調整が容易です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シンジエ吸引器は吸引力が強いです。</li> <li>● 吸引口の交換が容易です。</li> <li>● 吸引力の調整が容易です。</li> </ul>

カードホルダーに入れて肌身はなさず携帯してください

名前 年 月 日 生	医療機関名
保護者名 血液型 ( )	電話 - - 主治医 先生
緊急連絡先 電話 - - (自宅・携帯)	診断名
メール	内服薬
住所	医療機器
学校・施設	緊急時対応・アレルギー
電話 - - 担当の方	
メモ	

# 防災の提言 2

## 障害児者被災の特徴

NHK 2011年9月11日

東北3県沿岸部のうち、被害者数の割合は・・・

	30自治体	石巻市	女川町
一般	1%	2%	7%
障害者	2%	7.5%	13.9%

2~4倍

牡鹿地区は障害者被害が少なかった(4%)

日頃から高齢者・障害者と一緒に避難訓練を行っていたので、どこにどんな障害者がいて、どんな支援が必要か、近所の方がよく知っていた

- 普段の地域の防災訓練に参加することで  
→ 「この町内会にこんな子がこんな助けを必要としている」ことを知ってもらう

# 防災の提言 2

## 障害児者被災の特徴

NHK 2011年9月11日

東北3県沿岸部のうち、被害者数の割合は・・・

	30自治体	石巻市	女川町
一般	1%	2%	7%
障害者	2%	7.5%	13.9%

2~4倍

● 重症児はどれだけ地域に受け入れられているでしょうか

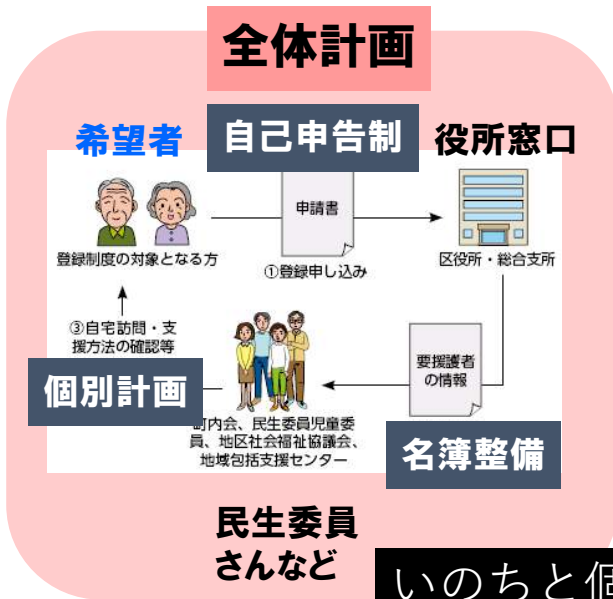
子どもさんと一緒に地域の防災訓練に参加されたことがありますか？

はい ■ 4  
いい  
え

73

# 災害時要援護者避難支援プラン

- 平成17年度から開始。要援護者とは、高齢者・障害者で災害が発生したときに、自力や家族の支援だけでは避難することができない方で、地域による支援を希望する方です



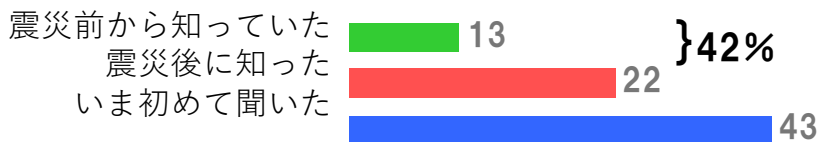
市町村の割合	全体計画策定済	名簿整備済	個別計画策定済
平成21年	32.0%		
平成22年	76.8%	52.6%	22.0%
平成23年	83.5%	64.1%	28.8%

個人情報保護のため、どこにどんな人が助けを求めるかという情報が止まってしまう

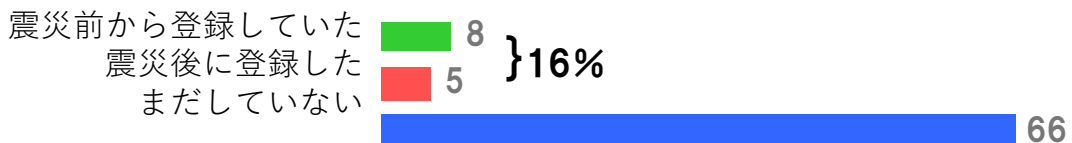
いのちと個人情報保護とどちらが大切か？

# 災害時要援護者避難支援プラン

- 災害時要援護者避難支援プランを知っていましたか？



- 災害時要援護者情報登録制度に登録しましたか？



- 登録されていて実際に援助が得られましたか？

はい 4人に1人

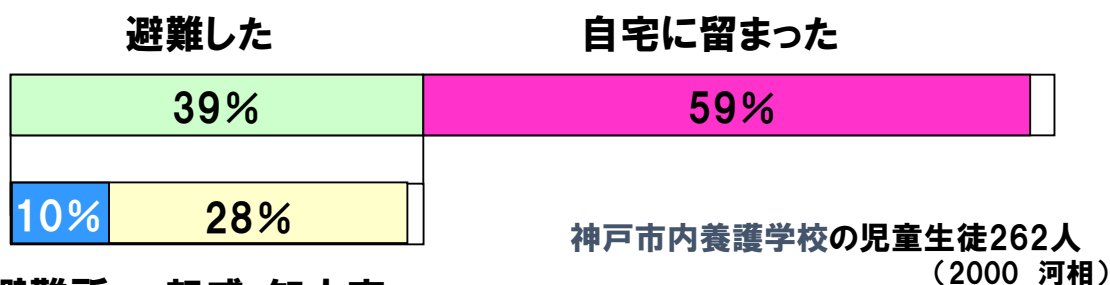
2012年 宮城県重症児者ご家族へのアンケート

- 自己申告制 障害者も対象 地域で受け入れられていることが大切
- 私たち支援者ももっと勉強しなければ...

# 防災の提言 3

## 障害児は避難所へ避難しませんでした

- 阪神大震災では、障害児とその家族はかなりの割合で、避難所への避難を躊躇した



避難所 親戚・知人宅

- 東日本大震災でも、夜間の吸引音を気兼ねしたり、ほとんどが自家用車や知人宅で過ごし、避難所には行かなかった

### 近くの指定避難所を知っていますか？



### 福祉避難所という言葉を知っていますか？



### 近くの福祉避難所がどこにあるか知っていますか？



### 福祉避難所を利用しましたか？



知らなかった 近くになかった 車がなかったの で 体調変化が心配で

# 防災の提言 3

## 福祉避難所

- 地域の福祉施設や支援学校が福祉避難所として機能できるよう整備することが必要です(59%のご家族が希望)  
← 「通いなれたところは子どもにとってストレスが少ない」
- 金沢市(45万人)では、障害児者向け8ヶ所、高齢者向け30ヶ所の福祉避難所(既存の福祉施設)をこの4月に指定
- だれがどこへ避難するかを聞き取り → 必要な救援物資を補助顔の見える関係性を作り、普段からのつながりを構築

## つなみてんでんこ

人が死なない防災 片田敏孝著

- 一人ひとりてんでバラバラに逃げる
  - 子どもの安否を確かめないで、本当に親が一人で逃げられますか「家の人か帰ってくるまで待つ」という子どもはたくさんいます
  - お母ちゃんはちゃんと逃げているだろう。だから、ボクも待たずにちゃんと逃げる。そうすれば、あとで迎えにきてくれるはずだ
- 根底に家族間の信頼関係があって初めて「つなみてんでんこ」が可能になる
- 一生懸命逃げる姿をみて、まわりも逃げる (逃げながら助ける)  
「この地域で一番津波にくわしいのは中学生だからな(釜石)」

家族・地域の信頼関係が大切

# 生きて 生きのびて

1. 災害からなんとしても逃げのびて
2. 安全に過ごせる場所を確保して
3. いつも備えをしておこう
4. それでも困ったときは・・・

助け合い・支えあい・信頼

## 防災の提言 4

### 自家発電機



※カ1 **ホンダEU9i-GB エネポ**

10万5千円

### 足踏式吸引器



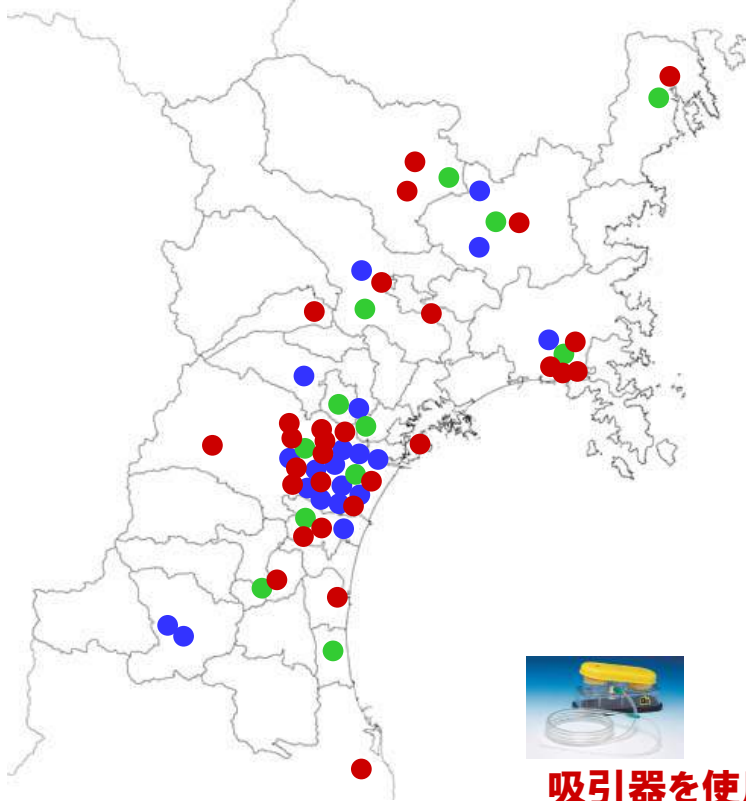
1万3千円

**新鋭工業製 足踏み式吸引器 KFS-400**

カセットボンベタイプは  
駆動時間は短い  
メンテナンスは楽で家庭用として適している

気管切開では  
両手が使える足踏式が  
適している

# 支援金から寄付



● 支援学校 12校



ガソリン式発電機

● 通所・通園施設 21ヶ所



● 人工呼吸器患者さん 54人



● 吸引器を使用している在宅患者さん 198人

長く生きることが難しいと覚悟はしていたが、

まさか津波で  
亡くなると思わなかった

障害のある人が災害で  
命を落とすことのない  
世の中になってほしい

私はこの子が亡く  
なったことが悔しい  
忘れることはできない  
愛情を持って伝えて  
行きたい

東日本大震災で、障害者手帳所持者の死亡率は住民全体の2倍近くに及んだ。自力での移動が難しい障害者をいかに避難させ、避難後の介護、ケアにどう対応するのか。対策は遅れている。「障害者が犠牲にならない社会にしてほしい」。関係者の願いは切実だ。

1面に関連記事

## 医療機器 運び出せず



### 寝たきり17歳犠牲に

東北の沿岸自治体でも、自閉症の拓君は昔から多い39人の障害者が犠牲、ラシオの音でもハンパ性となった。難性、難性、ツンに陥る。電源を入れらなう狩野君「当時17」全入手できなかった。は、自宅津波に遭い、倒れる家具がない層に落ちた。

拓君はあの日、母由紀の力を借り、黒い水の壁を乗り越え、弟拓君の3人がすくえは近づいていた。人へ自宅にいた。由紀さん、平野の家は海がなくて、は激震が襲った際、寝たきり拓君とベッドの上のり拓君にタンクが倒れ、由紀さんは「もう」なれないまま、必死で押え、3人で死ぬんだ」と悔しかった。

拓君の体量は43。避難時に、人工呼吸器やたん世の中になつてほしい」

### 障害者の避難・介護

#### 焦点

東日本大震災

津波で浸水した自宅で見つけた拓君の学校の記録集。「一生大切にしたい」と由紀さんは話す





重症児者の防災ハンドブック  
いろいろな立場の方の支援活動と  
重症児の防災の知恵と工夫を  
まとめました  
ぜひ、皆様の地域での防災に  
お役立てくださればうれしいです

そして、  
3.11を生きぬいた子どもたちや  
私たちが経験した苦難を語り継ぎ  
大切な子どもたちのいのちを  
守り育てるための**共有の財産**に  
なればと願います

## 課題

平時(災害発生前)・・・備える

- 何を準備するか？

災害発生時・・・助かる

- どうやって助かるか？ 助けるか？

避難時・・・生き延びる

- どうやって必要な物・情報を手に入れるか？

## 平時(災害発生前)

災害時要援護者登録されていますか？

災害発生時の約束は決まっていますか？

民生委員の方、自治会の方、消防署の方は知っていますか？

必要と思われるものはそろっていますか？

避難所まで行ったことがありますか？

## 災害発生時

安全確保

安全な場所に移動する

ご近所の力を借りる

居場所を伝える

# 災害発生時

地震発生 発災直後 避難 避難生活 生活再建

1 大震災のシミュレーション



**寝室**

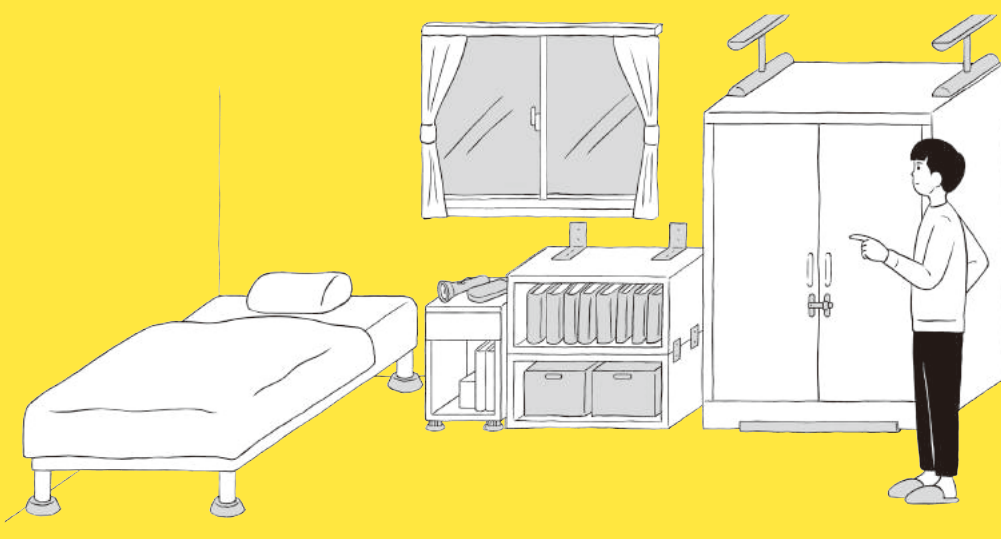
窓ガラスの破片やつり下げ式照明器具などの直撃を避けるため、枕や布団などで頭を保護し、スタンドや鏡台などが倒れてこない位置に移動すること。メガネは日頃からケースに入れてから寝るようにすれば、破損を防ぐことができ、あわてずに済みます。

揺れが収まったら、底の厚いスリッパを履き、ドアを開けて避難経路を確保。停電すると真っ暗になるので、あらかじめ懐中電灯を用意しておけば、暗闇の中でも安全に移動が可能。また、停電時に自動で点灯する市販の保安灯を備え付けておくのも一案です。

022 ////////////////////////////////////// 023 

東京防災より

## 対策をする



**寝室**


ベッド 脚に粘着マットなどの滑り止めを付ける。額縁や壁掛け時計などはベッドの近くの壁や天井に取り付けない。

窓ガラス 飛散防止フィルムを貼る。

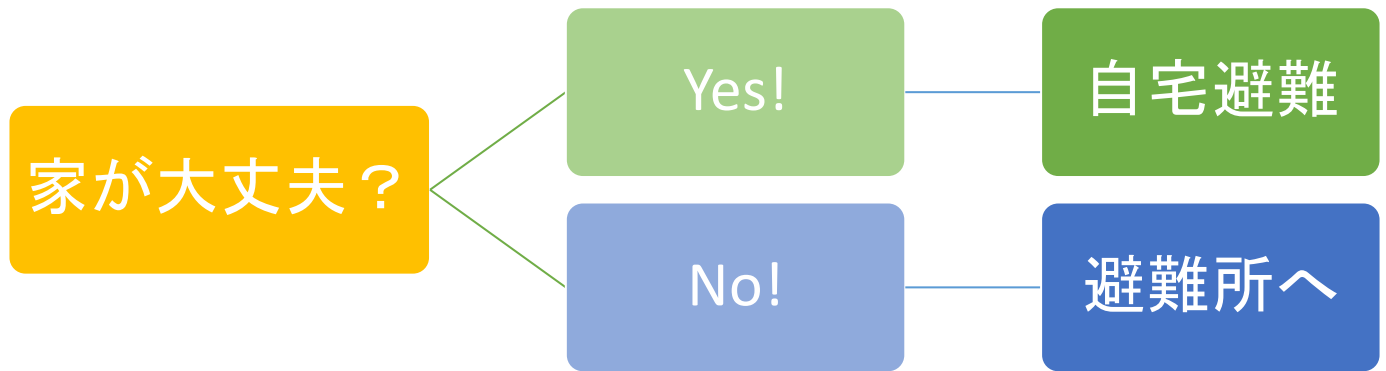
キャスター付き家具 動かさなときはキャスターをロックしてキャスター下皿をかませ、着脱式ベルトで壁につなげる。

積み重ね式 収納ボックス類 上下を連結金具でつなぎ、L型金具で壁に固定する。上に落下しやすいものをのせない。

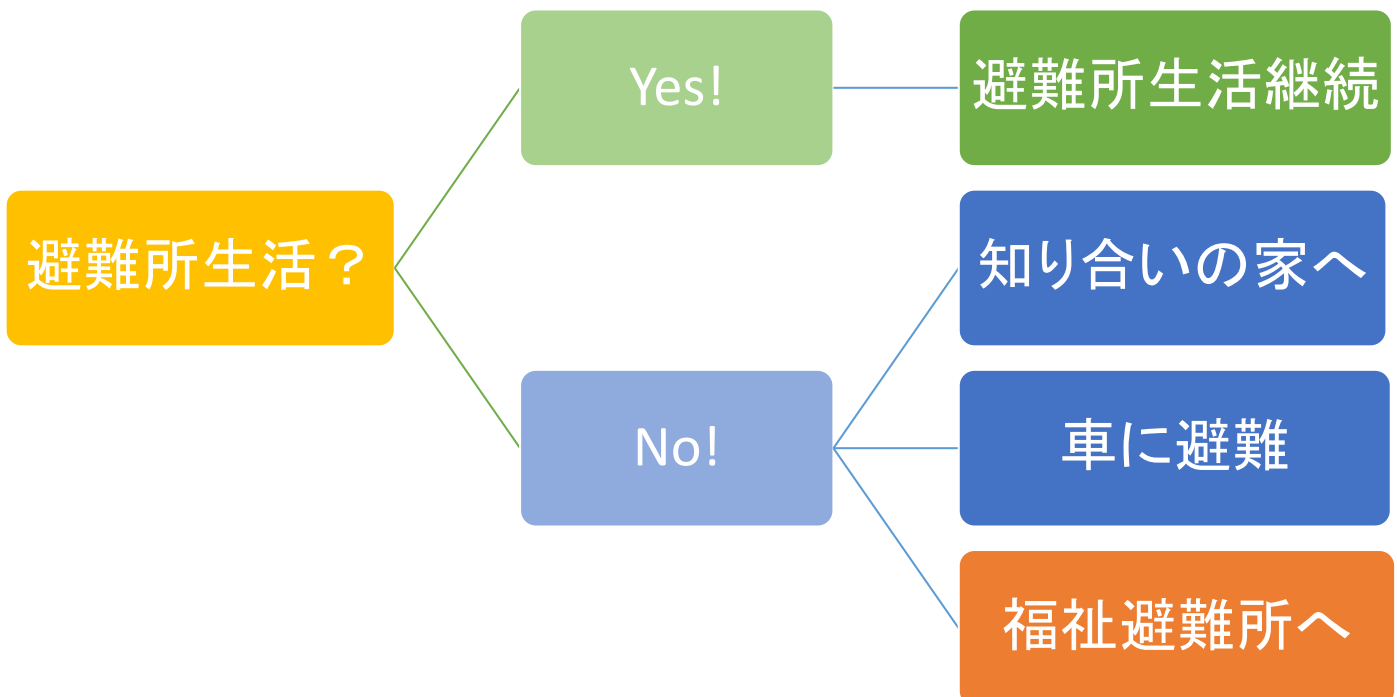
タンス・クローゼット 転倒しても避難経路（ドア）をふさがない置き方をする。L型金具や突っ張り棒で壁や天井に固定し、ストッパー式を敷く。

102 ////////////////////////////////////// 103 

# 地震・災害発生後どうする？



# 地震・災害発生後どうする？



# 自分で用意した方がよい食事



ホリカフーズHPより

OP | キャンペーン・特集 | 新商品・限定商品 | 商品をさがす | お買い物方法 | 初めてご利用の方へ | [カートの中を見る](#)

**食べながら備える  
ローリングストックBOX**

**5,000円(税込)**

朝食セット(1箱)、昼食セット(1箱)、夕食セット(1箱)、サトウのごはん コシヒカリ小盛り3食パック

[ご注文はこちら](#)

※おひとりが1回のお食事でも2食ずつ食べていただくと3日分のお食事になります。

BOXの中身は…



アマノフーズHPより

## 【図1】 食べながら備える「ローリングストック法」

©文平銀座+NPO法人プラス・アーツ

**1**

	朝	昼	晩
1日目			
2日目			
3日目			

ベースとなる3日分(9食分)の非常食を用意する。

**2**

	朝	昼	晩
1日目			
2日目			
3日目			
もう1日分			

もう1日分(3食分)余計に用意する。合計で12食分にする。

**3**

	朝	昼	晩	追加
1日目	<del></del>			
2日目				
3日目				
もう1日分				

1ヶ月に1回程度の頻度で非常食1食分を定期的に食べる。食べたら、1食分を買い足して補充する。

**4**

← そっくり入れ替わる →

	朝	昼	晩	追加	追加	追加
1日目	<del></del>	<del></del>	<del></del>			
2日目	<del></del>	<del></del>	<del></del>			
3日目	<del></del>	<del></del>	<del></del>			
もう1日分	<del></del>	<del></del>	<del></del>			

ちょうど1年で、最初に用意した4日分(12食)は全て消費し、買い足した12食分とそっくり入れ替わる。  
(※非常食の消費期限は1年でよい)

(福祉)避難所にはたいした物が無い

だから必要なものは自分で用意する

でも避難所にある物で何とかなることもある

## 対策をする

### 🗳️ 最小限備えたいアイテム

以下のリストは、最小限備えておくべき物の例示です。備えるべき品目については、各家庭の抱える環境はさまざまですから、一人ひとりが自分に合った物を考えて備えましょう。



#### 食品

缶詰などは加熱しなくても食べられます。また、野菜ジュースはミネラルやビタミン不足を補うことができます。

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 水（飲料水、調理用など）       | <input type="checkbox"/> 加熱せず食べられる物（かまぼこ、チーズなど） |
| <input type="checkbox"/> 主食（レトルトご飯、麺など）     | <input type="checkbox"/> 菓子類（チョコレートなど）          |
| <input type="checkbox"/> 主菜（缶詰、レトルト食品、冷凍食品） | <input type="checkbox"/> 栄養補助食品                 |
| <input type="checkbox"/> 缶詰（果物、小豆など）        | <input type="checkbox"/> 調味料（しょうゆ、塩など）          |
| <input type="checkbox"/> 野菜ジュース             |   |

#### 被災地を経験して重要だった物

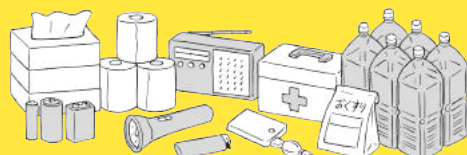
被災地の避難生活を経験した方が重宝したという物は以下のアイテムです。このほか高齢者や乳幼児がいる家庭では、おむつや常備薬など、生活する上で必要不可欠な物は日頃から多めに備えましょう。病気の方、療養食が必要な方、アレルギー体質の方についても同様です。

- |  |                                |                                    |
|--|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 水             | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ | <input type="checkbox"/> 充電式などのラジオ |
| <input type="checkbox"/> カセットコンロ・ガスボンベ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯  | <input type="checkbox"/> ビニール袋     |
| <input type="checkbox"/> 常備薬           | <input type="checkbox"/> 乾電池   | <input type="checkbox"/> 食品包装用ラップ  |

#### 生活用品

大型ビニール袋は、給水袋やトイレの袋としても利用可能です。生活スタイルに合わせて、必要な物を用意します。

- |                                    |                                      |  |
|------------------------------------|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 生活用水      | <input type="checkbox"/> 生理用品        | <input type="checkbox"/> 充電式などのラジオ     |
| <input type="checkbox"/> 持病の薬・常備薬  | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ     | <input type="checkbox"/> 携帯電話の予備/バッテリー |
| <input type="checkbox"/> 救急箱       | <input type="checkbox"/> ライター        | <input type="checkbox"/> ラテックス手袋       |
| <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー | <input type="checkbox"/> ゴミ袋、大型ビニール袋 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯          |
| <input type="checkbox"/> トイレ用ペーパー  | <input type="checkbox"/> 簡易トイレ       | <input type="checkbox"/> 乾電池           |
| <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ |                                      |  |



# 対策をする

## 🏠 備蓄ユニットリスト



### 備蓄ユニットの品目や量



日頃から自宅で利用、活用している物を少し多めに備えるという考えが「日常備蓄」ですが、各家庭の抱える環境はさまざまです。各々の生活スタイルに応じて、自宅で避難生活を送るために備えておくべき品目や量を自分たちで考え、「備蓄ユニット」として揃えておくことが重要です。

### 参考モデル / 夫婦と乳幼児1人、高齢女性1人の4人の家族構成

父 東京太郎 (40)  
教師：カレーが大好き  
母 東京香 (36)  
保険会社勤務：現在育児休暇中、コンタクトレンズ使用  
子 東京之介 (11ヵ月)  
卵アレルギーがある  
祖母 東京子 (70)  
高血圧、入れ歯、耳が遠い



	日常使い (常にキープしておく分)	災害への備え
被災地の経験から	<input type="checkbox"/> 水 (飲料用、調理用など) 2ℓ・12本 <input type="checkbox"/> カセットコンロ 1台、カセットボンベ 6本 <input type="checkbox"/> 常備薬・市販薬 各1箱	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ 約30回分 (複数回使用) <input type="checkbox"/> 懐中電灯 2個 <input type="checkbox"/> 乾電池 <input type="checkbox"/> 手回し充電式などのラジオ

	日常使い (常にキープしておく分)	災害への備え
食品	<input type="checkbox"/> 主食 無洗米 5kg、レトルトご飯 6個、乾麺 1パック、即席麺 3個 <input type="checkbox"/> 主菜 缶詰 (さばのみそ煮、野菜など) 各6缶 レトルト 9パック 缶詰 (果物など) 1缶 野菜ジュース 9本 飲料 500ml・6本 チーズ、かまぼこなど 各1パック 菓子類 3個 栄養補助食品 3箱、健康飲料粉末 1袋 調味料 各一式	
生活用品	<input type="checkbox"/> 大型ビニール袋・ゴミ袋 各30枚 <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> ラップ 1本 <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー 5パック入り・5個 <input type="checkbox"/> トイレトペーパー 12ロール <input type="checkbox"/> 除菌ウエットティッシュ 1箱・約100枚 <input type="checkbox"/> 使い捨てコンタクトレンズ 1ヵ月分 <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ 10個 <input type="checkbox"/> 点火棒 1個	<input type="checkbox"/> 携帯電話の予備バッテリー 3個 (携帯電話の台数分) <input type="checkbox"/> ラテックス手袋 1箱・約100枚
女性	<input type="checkbox"/> 生理用品 約60個	
乳幼児	<input type="checkbox"/> スティックタイプの粉ミルク 約20本 (アレルギー対応) <input type="checkbox"/> 離乳食 1週間分以上 (アレルギー対応) <input type="checkbox"/> お尻拭き 1パック <input type="checkbox"/> おむつ 約70枚	
高齢者	<input type="checkbox"/> おかゆなどのやわらかい食品、高齢者用食品 1週間分以上 <input type="checkbox"/> 常備薬 (処方薬) 1ヵ月分 <input type="checkbox"/> 補聴器用電池 6個 <input type="checkbox"/> 入れ歯洗浄剤 約30錠	

※上記リストを参考にしながら、各家庭に合ったものを揃えましょう。

088

089



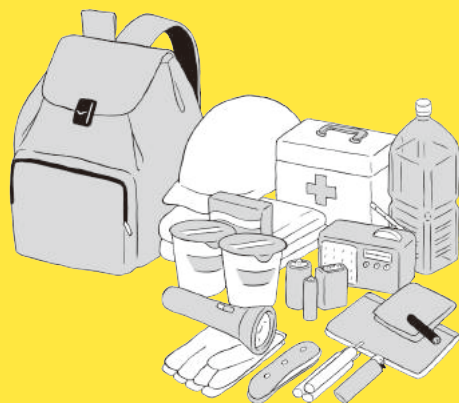
東京防災より

# 対策をする

## 🏠 非常用持ち出し袋



避難した際、当面必要となる最小限の品を納めた袋が非常用持ち出し袋です。非常用持ち出し袋の中身は、それぞれ自分にとって必要な物を考え、準備することが重要です。それらをリュックなどに入れ、玄関の近くや寝室、車の中、物置などに配置しておけば、家が倒壊しても持ち出すことができます。



- 懐中電灯
- 毛布
- 食品
- 哺乳瓶
- 携帯ラジオ
- 電池
- インスタントラーメン
- 現金
- ヘルメット
- ライター
- 缶詰
- 救急箱
- 防災頭巾
- ロウソク
- ナイフ
- 貯金通帳
- 軍手
- 水
- 衣類
- 印鑑

### 持ち歩き用非常持ち出し袋

外出時に被災したときのために、常に持ち歩くカバンに最低限必要なアイテムを入れておきましょう。携帯ラジオの乾電池は外しておきます。

- 携帯ラジオ
- ライト
- 乾電池
- 携帯電話用充電器
- 歯ブラシ
- 携帯トイレ
- ホイッスル
- 小銭
- エマージェンシーセット・ブランケット
- マップ
- 水筒

### 職場用非常持ち出し袋

会社で用意する以外の物を独自に備えます。会社に泊まることや、歩いて自宅まで帰ることを想定したアイテムを考えて準備してください。

- 歩きやすい靴
- ヘルメット
- 非常食
- ライト
- 救急セット
- 軍手
- 寝袋
- 簡易トイレ
- レインコート
- 水筒

### まとめておきたい大切な物

紙製の証書や証明書、印鑑などはファスナー付きビニールケースに入れておくと、防水にもなります。万一のために家族の写真を持ち歩くのもよいでしょう。

- 家族の写真
- 免許証
- 年金手帳
- 貯金通帳
- 健康保険証
- 印鑑
- 株券
- お薬手帳

090

091



【図1】 非常用持ち出し袋に入れておきたい防災グッズ

 <p><b>現金</b> お札だけでなく小銭も 分装容器に入れて準備を。</p>	 <p><b>運転・印鑑・カード</b> 運転と印鑑はセット での準備が重要。</p>	 <p><b>ポリ袋</b> (大、中、小複数枚ずつ) 非常持ち出し袋の収納、調理、など多用途に有効。</p>	 <p><b>ウェットティッシュ</b> 被災後の雨水時に手を 清潔に保つために。</p>	 <p><b>布巾</b> 家族の人数は交代わりにも、 避難所や屋外での炊事にも。</p>	 <p><b>携帯トイレ</b> 被災地でのトイレ機能 は重要。多量の準備を。</p>	 <p><b>緊急セット</b> 被災地では薬品が不足し 易。お薬庫で充分に準備を。</p>	 <p><b>水</b> (1日2リットル ×3日分×家族数) 被災直後の飲料水として、 生活用水は風呂の水を。</p>
 <p><b>油性マジック</b> 家族や知人にメッセージ などを残すために必要。</p>	 <p><b>ガムテープ</b> 油性マジックとセット では入試前書メモに。</p>	 <p><b>ホイッスル</b> 助けを求めるとき、 避難所までの合図に。</p>	 <p><b>ロープ</b> 避難所に入らず屋外で テントを作る際などに有効。</p>	 <p><b>非常食</b> 持ちもちよくおいしいう れつ食品を。小籠こ餅も。</p>	 <p><b>リュックサック</b> 防災グッズの持ち出し 袋は必ずが空くように。</p>	 <p>非常用持ち出し袋は 体力に応じたサイズで、 居室や玄関など複数箇所に 置いておきましょう。</p>	
 <p><b>携帯ラジオ</b> 停電する可能性の高い被災 地での情報収集のために。</p>	 <p><b>ヘッドライト</b> 被災地の夜間避難の場など に行き、夜の避難準備時。</p>	 <p><b>懐中電灯</b> 停電後の自宅や避難所、仮 設トイレでの照明用に。</p>	 <p><b>乾電池</b> 携帯ラジオ、懐中電灯 などの予備電源として。</p>	 <p>非常用食料として ストックしておくど よいもの</p>	 <p><b>飲料水</b> 1人1日2リットル× 家族×3日分の準備を。</p>	 <p><b>レトルト食品</b> 口に合う好みの 味を選びます。</p>	
 <p><b>ヘルメット</b> 被災地での屋外の移動 に必要。高次準備品。</p>	 <p><b>厚手・厚手の手袋</b> 配水する被災地でケガ をしないための必需品。</p>	 <p><b>歩きやすい運動靴</b> ガラスが破散する柱間内 でケガをしないよう大切に。</p>	 <p><b>衣類</b> 避難先に入る可成りの量 は被災先まで持ってきて。</p>	 <p><b>工具</b> ミスル、鋸の 種類のために。</p>	 <p><b>缶詰</b> 缶詰り不要の タイプのものも。</p>	 <p><b>調味料</b> おでや醤油で 味にアクセントを。</p>	 <p><b>カセットコンロ</b> 温かい食事のための 必需品として。</p>

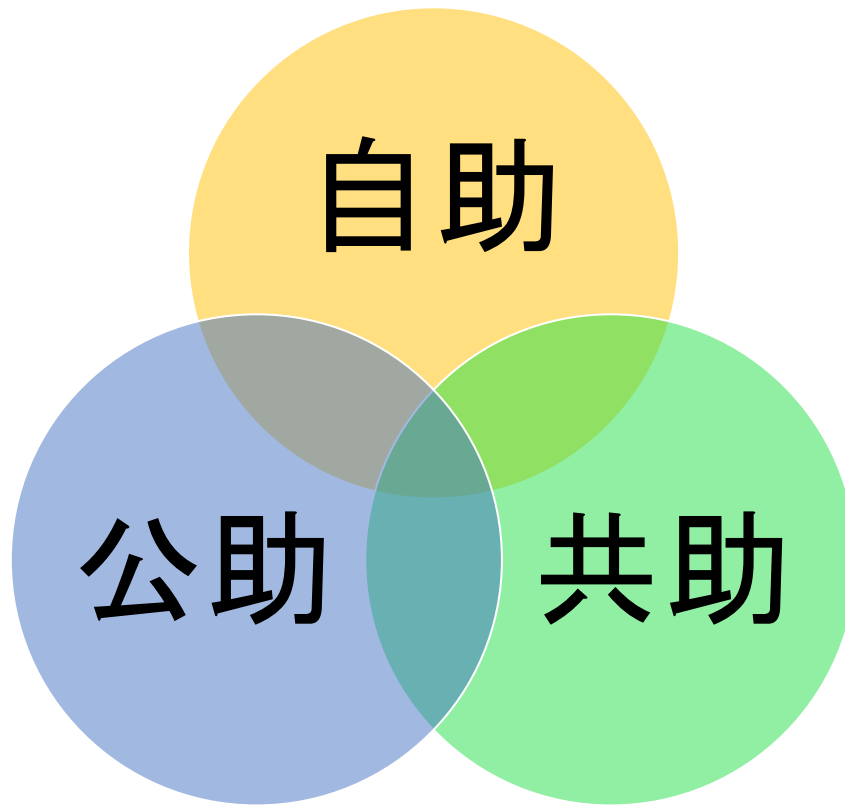
©文芸春秋 | NPO法人プラス・アーツ

NHK そなえる防災 HP より

# 大切なのは “想像力” と “準備”



# 防災力 = 地域力



## Q & A

電源に頼らない選択肢！

発電＋蓄電！

### 足踏式吸引器

イチオシ!!! 価格が安価ということもあるが使い勝手が良い。



新鋭工業製 足踏式吸引器QQ 定価13,800円  
約11,000円前後で流通。



ブルークロスエマージェンシー製  
PF-300 定価20,000円  
約16,000円前後で流通。



IMI(アンプ)足踏吸引器 定価58,000円  
約55,000円前後で流通。

専用外部バッテリー



汎用バッテリーとインバーター



発電機



ガソリンタイプ

カセットボンベタイプ

家庭用蓄電池



# Q & A

## 停電時に電源確保したい機器

- 冷蔵庫(食料) 280W~400W
- テレビ(情報) 100W
- 冷暖房 200W~500W
- 人工呼吸器 200W
- 加温加湿器 300W
- 酸素濃縮器 150W
- 吸引器

最大時:人工呼吸器200W+酸素濃縮器150W+加温加湿器300W = 650W  
 通常運転時:は人工呼吸器50W+濃縮器100W+加湿器80W=230W前後

加温加湿は人工呼吸器回路用の人工鼻で代用すれば加湿器は必要ない。  
 酸素は携帯用酸素ボンベで代用。  
 吸引器は手動・足踏式吸引器で代用。



EU9i-GB	EU9i	EU16i	EU26i	EU55is
900W	900W	1600W	2600W	5500W
118,800円	134,400円	215,000円	312,900円	488,250円
19.5Kg カセットボンベ 2本で2.2時間	13Kg ガソリン2.1ℓ	20.7Kg 3.6ℓ	35.2Kg 5.9ℓ	101.7Kg 13.8ℓ
必要最低限の照明		ほとんどの 電気製品	一般家庭の 総電力	小型事務所の 総電力

長野小児在宅医療研修会HPより

## 今回の停電から浮かび上がった課題

### 自助

- 発電機のカセットボンベの数が36本では足りない、蓄電池も一緒にあった方がいい
- 酸素ボンベや吸引器が持たない、加湿器が使えない
- 緊急物資を分散させておく

## 今回の停電から浮かび上がった課題

### 共助

- 長期化した場合や緊急対応が必要な場合に近所の人に協力を得られるかどうか
- エレベーター停止時の移動や水・食料の運搬を誰にどうやって依頼するか
- 病院や福祉避難所にどうやって移動するか

## 今回の停電から浮かび上がった課題

### 公助

- 病院に電話が繋がらない・・・SNSの利用
- どこで受け入れてくれるか、どこで電源が確保できるか情報を得る手段がない・・・医療関係者と患者さんが共有できるクラウド上の情報共有プラットフォーム
- 同時に3箇所(病院、診療所、訪問看護)から連絡がきた(患者情報の共有化)・・・同上のプラットフォームで安否情報共有化
- 今回は病院が受け入れ可能な状態だったが、地震では病院も被害を受けていたり、負傷者が殺到したり、災害モードになったりすると受け入れができない(実際北海道地震では人工呼吸器の子の受け入れ拒否があった)

# 今回の停電から浮かび上がった課題

## 当センター

- 固定電話やPC、電子カルテが今回は使えたが、地震等では繋がらないことが想定される・・・診療所携帯をスマホ化、紙カルテやクラウドでの情報管理、患者さんと共有のプラットフォーム、ご家族の携帯電話とメールアドレスやラインの登録
- 発電機が6台しかない・・・呼吸器管理が増えており、HOTや照明など他にも電源が必要なためおそらく10台以上必要、蓄電池の必要性、太陽光発電等の利用
- 水や食料が利用者(150名3日分)しかない・・・福祉避難所として機能するには200名5～7日分は必要
- 災害時に物資輸送の拠点化

# 障がいをもつ子と家族のための サバイバルキャンプ & 防災ワークショップ 6年間のあゆみ そこから見えてきたもの

浜松医療センター小児科 宮本 健



2011年3月11日  
東日本大震災



**日本経済新聞** 2012年7月30日

住民62万6926人のうち震災犠牲者数は8499人で、死亡率は1.4%

障害者全体の死亡率は3.5%

身体障害者が3.9%

精神障害者の3.1%

知的障害者の1.5%

女川町 15.6%

南三陸町 13.3%

福島県沿岸 0.46%

障害者支援団体「日本障害者フォーラム宮城」の資料から共同通信が集計

①地域における身近な福祉避難所

指定避難所等の中に、介護や医療相談等を受けられる空間を確保する。

②地域における拠点的な福祉避難所

2011年3月11日 東日本大震災

- 事前指定の福祉避難所はほとんど機能せず、利用不可能
- 発災後に指定を受けた福祉避難所がどこか知らされない
- 福祉避難所にたどり着くまで、一次避難所を複数回移動
- 避難所運営に現場の声が反映しにくく、様々な制約

防災サバイバルキャンプ勉強会 & 準備会





「災害のときに特に困るのは、  
妊婦さんと子どもと障がいをもつ人、老人、外国人...」

2013年9月22日

浜松市立青少年の家

対象

年長園児から小学校6年生  
までの障がい（知的障がい、  
発達障がい、肢体不自由な  
ど）をもつ子とその家族

**障がいをもつ子と家族のための  
サバイバルキャンプ & 防災ワークショップ**

体験する？

医師、保健師、心理士、保育士など、専門職のサポートのもと  
家族でお泊まり避難所体験をしてみよう。  
「その時」、なにが必要か、語り合おう。仲間を作ろう。

2013年 9月22日(日)午後～23日(月・祝) 午前  
浜松市立 青少年の家  
参加費 ひとり ¥1,000  
(ご家族4名で参加される場合 合計4000円となります)

内容 ライフライン使用不能への対応 非常食試食 防災グッズ 避難所宿泊体験  
対象 年長園児から小学校6年生までの障がい<sup>※</sup>をもつ子とその家族  
※障がいには知的障がい、発達障がい、肢体不自由などが含まれます。

募集人数 40名前後（家族の参加者を含む）  
募集期間 2013年7月16日（水）～9月6日（金）（応募者多数の場合は抽選とさせていただきます）  
応募方法 下記ブログより、申込フォームにてご希望いただくか、必要事項をご記入の上、下記メールアドレス宛てにメールにてご応募ください  
必要事項 ①住所 ②生年月日 ③障害や病の名称と程度 ④参加希望（避難所体験、食事内容、アレルギーク、体験、移動・行動距離）  
申込先 miraitalkhamamatsu@gmail.com  
主催 miraitalk (財) こどものよりよい未来を創る会 2013年4月に改称）  
ブログURL http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv  
後援 浜松市教育委員会

# キャンプの目的

1. 障がいをもつ子が仮想避難所体験を通じて、非日常生活への適応力を向上する
2. 家族にとってワークショップや仮想避難所体験を通じて、何が必要で、何を準備すべきか、体験し、学ぶ場を提供する
3. 私たち自身が避難所運営に当たって、障がいをもつ子と家族に必要な配慮、支援を見出す
4. 障がいをもつ子と家族について、市民の理解を深めるために、社会に向けて発信する



## ワークショップ1 防災グッズをつくろう

講師 NPO法人はままつ子育て支援ネットワークぴっぴ理事長 原田博子氏







## ワークショップ2 防災グッズを知ろう

低圧LPガス発電機&アクアクララの紹介 講師：エネジン株式会社

段ボールトイレ「たすけくん」の紹介 講師：NPO法人すだち理事長 森田能行氏

100均でそろそろ避難グッズの紹介







アルファ米 (協賛：浜松市)

温めずに食べられるカレー (協賛：江崎グリコ)

## ワークショップ3 災害に備えよう 家族で考えよう

講師：浜松市危機管理課長 松永直志氏











## 朝のメニュー

ひじきご飯or山菜ごはん（協賛：磐田市役所）

卵ワッフル（協賛：リンドマン（株））&みそ汁



2014年09月16日  
浜松市発達医療総合福祉センター

浜松市社会福祉事業団共催  
福祉避難所設営・移送訓練同時開催

15組42名、スタッフ60名





# ストーリー

- 大地震発生、3日後・・・
- 福祉避難所が開設され、地域の避難所や自宅避難の状態から特に配慮の必要な方を抱えたご家族が、福祉避難所に集まることになりました。
- 発達障がい、肢体不自由をもつ子どもたち、人工呼吸器を必要とする方、アレルギーを持つ方、外国人で障がいをもつ子のご家族など、さまざまな方が集まり、体育館で共同生活することになります。
- 福祉避難所には、医師をはじめ専門スタッフがおりますが、特別な設備はありません。
- 水や電気、ガスなどの、ライフラインも止まったままです。
- 特別な食事、防寒具、子どもが安定できるあそび道具など避難した場合に必要と思うものを各自で用意して避難してください





元石巻支援学校校長 櫻田博氏  
東日本大震災から学んだこと  
～子どもたちを災害から守るために～



浜松市危機管理課長 本間秀太郎氏  
『浜松市の防災体制の構築』



# あそびはくすり

子どもがあそべる状況があると、場に安堵が生まれ、  
おとなもこれからのことを考えられる。  
あそびは緊急時に「あそび=余白」をもたらしてくれる。

そこにあるものでどう遊ぶかというのも大切な防災訓練



みらいTALKブログからダウンロードできます

<http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv>



ホンダ エネポ



MCM Japan (株) の太陽光発電LEDランタンMpowerD



# サバイバルミュージック

ピアノ 鍵盤ハーモニカ ビニール 袋 新聞紙 ペットボトル 空き缶 火花 虫の音

Special Guest 片岡祐介さん(音楽家・打楽器奏者)

避難所となった体育館の倉庫の奥にあった古いピアノをブルーシートにのせて運びました。

音楽家片岡祐介さんが鍵盤ハーモニカ一台をもって避難所に来た。

ダンボール、子どもたちが絵を描いてあそんだビニール、新聞紙をつめた袋、ペットボトル、空き缶、拍手、子どもの声、そして遠くであがる花火の音や虫の音など...そこにあるものが楽器になり、そこにある音がすべて包み込まれた曲が生まれた。

パキーがきしむほど音にあわせて体を揺らしていた子ども、前に踊り出ていった子ども、大きな音にちょっとびっくりしていた子ども、音楽が終われば体育館に静寂もどると

一斉に眠りについた。



平日) 実争) 江戸) 飛千)



段ボールベッド作りを体験する参加家族—浜松市浜北区高麗の市発達医療総合福祉センター—

## 避難所生活を模擬体験 1泊2日で防災キャンプ

浜北区

浜松市内の小児科医ら16家族が参加した「避難所生活を体験しよう」の防災キャンプが、浜北区高麗の市発達医療総合福祉センターで1泊2日開催された。参加者は家族ごと、保育士などをつなげたユニットを組んで、避難所生活を体験した。体験した高麗町立市立東山小学校の松田博前校長は、「避難所生活を体験する機会が少ないので、ぜひ体験してほしい」と話した。

**障者児と家族対象**  
浜松市内の小児科医ら16家族が参加した「避難所生活を体験しよう」の防災キャンプが、浜北区高麗の市発達医療総合福祉センターで1泊2日開催された。参加者は家族ごと、保育士などをつなげたユニットを組んで、避難所生活を体験した。体験した高麗町立市立東山小学校の松田博前校長は、「避難所生活を体験する機会が少ないので、ぜひ体験してほしい」と話した。

## 被災者へ慈善コンサート

(スベル調唱歌を力強く)



アレンジした唱歌を披露したコンサート—市中区の市福祉交流センター—

### 福祉避難所の生活体験

浜北区で防災講座

福祉避難所の生活体験... 福祉避難所の生活体験... 福祉避難所の生活体験...

### 自分のロボット完成

少年少女工作セミナー

少年少女工作セミナー... 少年少女工作セミナー...

2014年9月14日中日新聞

2014年9月18日静岡新聞



災害時に自立した人々を作るために  
～楽しく学ぶ防災のすすめと地震ITSUMO講座～

講師：永田宏和 氏 (NPO法人プラス・アーツ理事長)

日時： 2015年9月13日(日) 14時30分～17時  
場所： 浜松市発達医療総合福祉センターホール  
対象： 防災・教育・福祉・医療関係者および福祉避難所にかかわる支援者  
参加費： 無料(先着70名)  
募集期間： 2015年7月27日(月)～8月28日(金)  
応募方法： ①氏名、②所属、③連絡先(電話番号)を記入の上、メール  
(miraitalkhamamatsu@gmail.com)にてご応募ください



2015年10月17日

浜松市発達医療総合福祉センター

参加者：障がいをもつ方、外国籍の子ども、およびその家族13家族36名  
1～56歳（うち障害をもつ方3～22歳）女性19名 男性17名

(障害種別)

要援護者13名中（療育手帳所持5名、身体障害者手帳所持5名）

発達障害6名

知的障害2名

身体障害5名（うち1名：経管栄養、1名：人工呼吸器管理＋気管切開・吸引＋経管栄養、1名：気管切開・吸引）

(外国籍別)

ポルトガル語1家族2名（うち1名身体障害）

スペイン語1家族2名（うち1名知的障害）

スタッフ：75名

(スタッフ内訳)

災害時多言語ボランティア10名（ポルトガル語2名、ベトナム語2名、インドネシア語2名、英語1名、HICE3名）

学生ボランティア 23名（うち大学生20名、高校生3名）

そのほか当日ボランティア7名

ボランティアコーディネーター4名



2016年9月24日

静岡県立西部特別支援学校

静岡県立西部特別支援学校PTA主催、みらいTALKが共催



2017年9月22日

静岡県立西部特別支援学校



No. 23-6  
活動紹介カード

平成29年9月23日(土曜日)  
活動先 浜松市 北区根洗町  
西部特別支援学校 体育館他  
集合・開始 時間 15:30~17:30  
募集人員 男性・女性 5

活動内容

7-7活動補助  
70分  
70分  
80分

No. 23-7  
活動紹介カード

平成29年9月23日(土曜日)  
活動先 浜松市 北区根洗町  
西部特別支援学校 体育館他  
集合・開始 時間 12:45~13:10  
募集人員 男性・女性 人

活動内容

駐車場案内  
材料  
20分  
30分

No. 23-7  
活動紹介カード

平成29年9月23日(土曜日)  
活動先 浜松市 北区根洗町  
西部特別支援学校 体育館他  
集合・開始 時間 12:45~ :  
募集人員 男性・女性 1人

活動内容

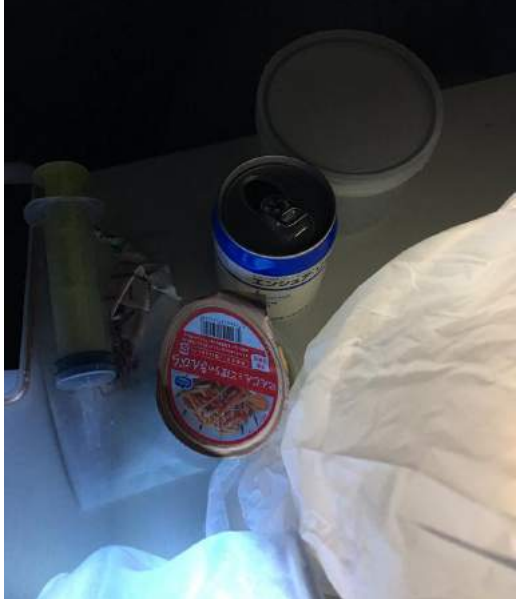
同診補助  
松本





やくそくをまわってくついで  
 入っていいよ!  
 ・相手のまよりはあがきまぬ  
 ・あそびときはルールをまめる  
 ・かっとう、やることかぼまったら  
 しらないこと。  
 夕食・朝食にうけとりに行く時  
 にあんとしじおきく  
 相手お話しするときはあんと  
 しおきく  
 ルール







- ・朝食は何も食べなかったが、代わりに持参していた好物のポテトチップスを食べた
- ・アルミシートは温かかったが、音が気になった
- ・今回は子どもにとって知っている人がいて安心していただけが、実際の避難所では難しいと感じた
- ・予想通り夜間泣いてしまい別の部屋を用意してもらったが、今後の課題になった
- ・子どもの好きな曲をもってきたが、他の人がいるので使わなかった
- ・新聞紙がおむつ替えに役立った
- ・おむつ替えの場所があると良かった
- ・大部屋で出入口付近に寝ることになったため常にみられている感じがあった
- ・食事はこれしかないと思ったら食べてくれた
- ・非常食のリスト（売っているところと値段）があるといい
- ・配給をもらいに行くのに子どもをつれて並び、荷物を運ぶのが大変
- ・100円均一ショップで揃える防災グッズのリストがあるといい
- ・手を洗う、トイレに行く、といった普段当たり前にしている行動も手順を色々考えた
- ・消毒用ジェルがあるといい
- ・子ども達が楽しめるもの（お菓子、おもちゃ、本、ペン、折紙など）が必要だと思った
- ・大部屋でモニターのアラームがなって迷惑をかけた
- ・タオルケットとタオルが必要だと思った
- ・今回は比較的よい季節だったが真夏や真冬のことも考えないといけない
- ・1泊だけだったので清拭はよかったが、長くなると考えないといけない
- ・段ボールベッドがよかった
- ・アイマスクや耳栓があると良いと思った
- ・家で生活できる状態だったら、家にいると思う
- ・普段飲まない味噌汁も飲めた
- ・お気に入りの毛布を持ってきていてよかった
- ・水が大切だとつくづく感じた
- ・多動があるので、なるべく自宅で過ごせる準備をしたい

毛布や新聞紙

備蓄水

食料関連品

衛生材料（マスク、簡易トイレ、歯ブラシ、タオル、生理用品など）

医療機器

エネポなどカセットボンベ式の簡易発電機

電源を必要としないウォーターサーバー

段ボール（パーティションやベッドとして）

小型テント（トイレや更衣室、オムツ替え室など多用途利用）

おねしょパッド・シーツなど

福祉避難所には...

インバーター式発電機

非電源式吸引器（足踏み式吸引器など）

医療機器（モニターなど）

中サイズのオムツ（スーパービッグサイズ）

おねしょパッド・シーツ

温風冷風対応エアサプライヤーや扇風機

ホットカーペットなど

# 非日常の中で日常を感じられる もの、人、場所

- もの 各家庭・各個人での準備
- 人、場所については避難所の設置に関わる
- 一般避難所に顔なじみを増やす
- 普段から地域で交流
- 通いなれた場所（特別支援学校や児童発達支援センター、通所施設など）が福祉避難所の指定を受け、受け入れの準備をしておく

## 自宅避難という選択

- 家の耐震・家具の固定
- 情報の確保
- 地域のコミュニティと接点を保つ
- 水と食料の備蓄と加工（少ない水と熱源）工夫
- 飲料以外の水の確保
- 通信、灯りを考える
- ペットへの対応

- 
- 災害時要支援児者マップ・避難先登録リスト
  - 自治体や民生委員と情報共有



## 修了証

〇〇 ファミリー 様

あなたは 障がいをもつ子と家族のための  
サバイバルキャンプ&防災ワークショップ2015に  
おいて しっかり体験し、じっくり考え、ばっちり  
サバイバルされました。  
よって これを証します。

障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ&防災ワークショップ2018

実行委員長 宮本 健

みらいTALK代表 平野 浩一



## 熊本地震

### 福祉避難所機能せず 利用わずか104人

熊本地震で4万人近くが避難する熊本市で、高齢者や障害者ら「災害弱者」を受け入れる福祉避難所の利用者が24日現在でわずか104人ととどまっている。市は国の方針に従って176施設を福祉避難所に指定し、災害時には約1700人を受け入れられるとされていたが、実際は施設側の準備や要支援者への周知はほとんどされなかった。多くの災害弱者が、設備やサポートのない場所で過酷な生活を余儀なくされている可能性がある。

【村田拓也、石川貴教】

ご清聴ありがとうございました



2018/10/20 中東遠圏域「ぼうさい」検討会

# 志太榛原圏域における現状と 重心部会の取組み

駿遠学園 岡村 玲  
(志太榛原圏域スーパーバイザー)

## 志太榛原圏域について

- 人口:470,826人 (H30年3月末現在)
- 障害者手帳所持者数:21,518人  
【身体:14,731人/療育:3,888人/精神:2,899人】
- 障害福祉サービス給付者数:3,550人  
【者:2,598人/児:952人】

約22人に1人が手帳を所持している  
そのうち6人に1人がいずれかの障害福祉サービスを利用している



・主な産業  
茶・米・花き・野菜・ミカンなどを主体とした農業や、森林資源を生かした林業、焼津漁港における鰹・鮪を主とした遠洋・近海漁業と大井川港の沿岸漁業

・温泉スポット  
川根温泉/瀬戸谷温泉ゆらく/やいづ黒潮温泉  
さから子生まれ温泉会館/サンフレンド遊湯の里/寸又峡温泉

## H28年度圏域内実態調査より

各市町の3歳～64歳(H28.7.1時点)で、「療育手帳A」と「身体障害者手帳1・2級」を併せ持つ方は、

市町	人口(人) H28.9末時点	重症児者の数	内)在宅生活	内)施設入所
島田市	100,064	58	44	14
藤枝市	146,565	120	88	32
焼津市	141,452	89	80	9
牧之原市	46,659	41	31	10
吉田町	29,668	11	11	0
川根本町	7,318	5	3	2
圏域	471,726	<b>324</b>	<b>257</b>	<b>67</b>

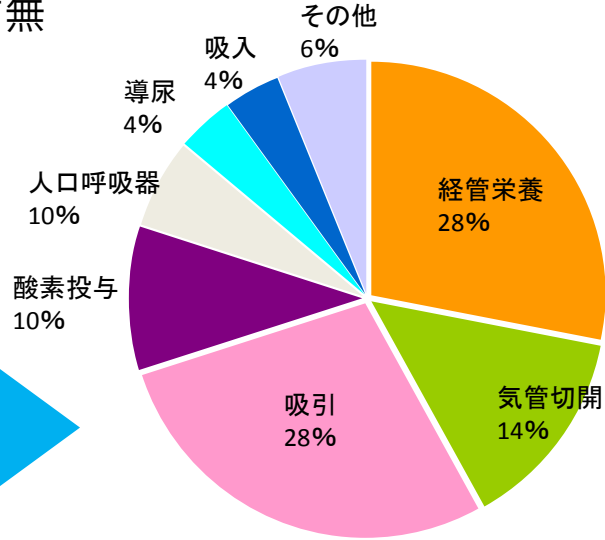
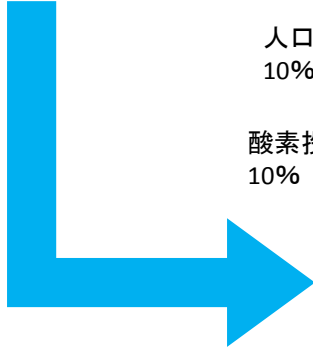
## H28年度圏域内実態調査より

各市町の3歳～64歳(H28.7.1時点)で、「療育手帳A」と「身体障害者手帳1・2級」を併せ持つ方は、

市町	重症児者の数	内)18歳未満	内)18歳以上
島田市	58	31	27
藤枝市	120	45	75
焼津市	89	29	60
牧之原市	41	9	32
吉田町	11	8	3
川根本町	5	0	5
圏域	<b>324</b>	<b>122</b>	<b>202</b>

## H28年度圏域内実態調査より

医療的ケアの有無  
 ない→71%  
 ある→29%



## 志太榛原圏域の社会資源について

H29.11時点で重症児者を支援している事業所

『児童発達支援』 7事業所

『放課後等デイサービス』 9事業所

『生活介護』 10事業所（定員230人分）

『訪問系サービス』 25事業所

（居宅介護、重度訪問介護、移動支援、行動援護）

『訪問看護』 13事業所

## 『短期入所』 志太榛原を含めた近隣の指定事業所

地域	事業所	定員	医療ケア	備考
島田	駿遠学園	6名	受入なし	児童のみ・日中一時支援
	垂穂寮	4床	受入なし	日中一時支援 ※短期入所について人員・居室状況により受け入れ制限中
	つつい雨やどり	6床	受入なし	予約は1ヶ月前の15日までに申し込み
藤枝	天竜厚生会アクシア藤枝	20床	受入なし	送迎要相談 緊急時相談
	わかたけ	2床	要相談	3歳以上。利用条件あり。
	藤枝市立総合病院	1床	対応	2ヶ月前に予約 緊急時は要相談
牧之原	やまばと希望寮	5床	受入なし	日中一時支援
静岡	つばさ静岡	10床	対応	医療ケア対応4床（内呼吸器1床） 2ヶ月前に予約
	てんかん・神経医療センター	6床	対応	3ヶ月前に予約

志太榛原圏域 重症心身障害児者支援専門部会

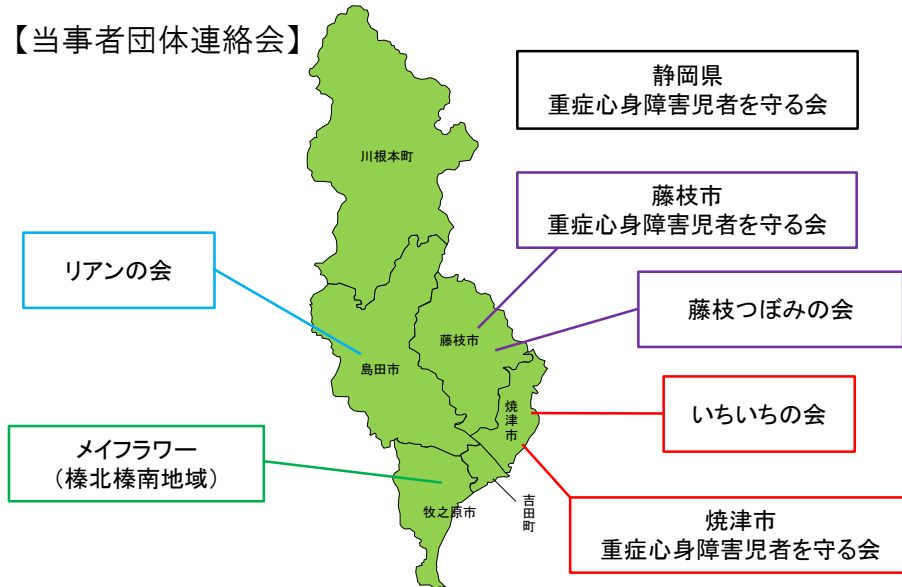
【部会員】

生活介護事業所  
 訪問看護事業所  
 放課後等デイサービス  
 相談支援事業所  
 社会福祉協議会  
 特別支援学校  
 当事者団体  
 児童発達支援センター

+ 県・SV

## 志太榛原圏域 重症心身障害児者支援専門部会

【当事者団体連絡会】



## これまでの取組み・できたこと・進んでいること

- H23 圏域議会での重心部会の設置・協議
- H24 圏域による公開ネットワーク会議(当事者、行政、事業所、教育)の開催
- H25 当事者団体によるネットワーク会議の構築
- H27 **防災対策と支援についての検討**
- H28 重症児者の状態別実態調査
- H29 事業所及び学校の医療機関との連携調査  
医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置  
在宅重症児者対応多職種連携研修

## 積み残した課題・新たに見えてきた課題

- ・特別支援学校卒業後の受け入れ事業所(生活介護)の不足
- ・医療的ケア対象児者の短期入所の受け入れ先の不足
- ・重症児者支援の専門性を持った相談支援事業所の不足
- ・保護者(就学前～学齢期)の当事者団体等への参加促進

## 本年度の取組み

- ・公開型ネットワークの場『**しだはい、はなそ〜かい**』開催

テーマ:「ライフステージに応じた支援のあり方について」

内 容:講演会と分科会

日 時:平成30年12月19日(水)10:00～15:00

場 所:藤枝市生涯学習センター

- ・短期入所利用確保推進事業制度の研究

当事者団体へのアンケート。かかわりのある医療機関と短期入所利用の実態把握

- ・児童領域との連携

児童期支援のあり方検討。医療的ケア児等コーディネーター養成

- ・市町協議会及び当事者団体連絡会との協働

平成30年10月20日

## 志太榛原圏域重症心身障害のある方への防災と支援について

志太榛原圏域自立支援推進会議

重症心身障害児者支援専門部会

### 【 防災に関する協議の趣旨 】

平成25年公表の東海地震第4次被害想定、東日本大震災、近年の豪雨災害、防災意識の向上と共に重症心身障害児者を取りまく課題が専門部会員より提起され、平成27年度より継続して防災をテーマに検討しています。

### 【 活動状況 】

以下の内容について、年3回の協議を実施しました。

「自助・共助・公助」を軸に当事者団体、入所施設、生活介護事業所、特別支援学校、相談支援事業所  
防災への取り組みの他、各市町における重症心身障害児者の防災対策を確認を行いました。

#### 1. 各市町における重症心身障害児者の防災対策

平成28、29年度は、各市町の担当課へ出向き直接聞き取りを行ないました。各市町の防災対策を確認し、要援護者（災害時要支援者）台帳登録の利用や、災害後の福祉避難所の開設の状況を把握しました。防災資源である、要援護者台帳登録の方法や活用、福祉避難所の開設について各市町で対応や共通点、進捗状況など確認しました。



## 2. 各市町の防災対策

※各市町聞き取りについては、28、29年度の資料を抜粋したものです。毎年、内容等で見直し変更がされていることがあります。あくまでも参考資料としてご参照ください。

(吉田町)

福祉避難所の避難、対応のマニュアル作成を現在行っている。障害別の詳細な対応方法も作成中であり、重症心身障害児（者）支援についても、今後マニュアル作成を行っていく予定。

・地震や水害発生時の避難行動については、避難所が開設されてから避難令を出しているため、要配慮者（高齢者・障害者）はいち早く避難してほしい。水害の場合は市内の河川の水量で判断している。

・重症心身障害児者を想定した訓練は行っていない。吉田特別支援学校では、車イスを使用している生徒さんを家族の協力を得て津波タワーへ車イスを持ち上げる訓練を実施している。

・指定避難所（一般的な避難所）の運営は自主防災組織が運営を行う。支援が必要な方が避難してきた際は福祉エリアを作り対処することになっている。ただし、大規模災害の際は、指定避難所は学校が主になり、障害特性に合わせた教室で生活することが想定される。福祉避難所については指定されている場所が受け入れ可能の可否を確認することになっている。

・自主防災組織ではHUGを利用し、避難所開設の運営、判断力を養う訓練を行っている。

(川根本町)

・重症心身障害児者は数名であり、個別に対応を考えている。福祉避難所マニュアルを作成し、福祉避難所では1階は高齢者、2階を障害者としている。川根本町は電気の町で、難病で呼吸器等を使用している方が在宅で生活していても電源確保が滞らないように対応している。また、医療ケアの必要な方への対応は、病院（診療所）が受け入れ態勢をとっている。

・一般避難所について、予測では2週間程度で応急仮設住宅が20～30棟建てることを想定している。避難所生活よりも仮設住宅で生活することになるのではないかと。

・地震や水害については、消防団が対応。町職員と一緒に避難状況を把握していく。

## （焼津市）

- ・指定避難所（一般）での重症心身障害児者への対応、配慮について、自主防組織には発電機が用意されているが、医療ケアの必要な方々の避難先は病院と考えている。医薬品については調達リストがあり消防局で対応することになっている。医薬品については、自助努力をお願いしたい。
- ・自主防災組織ではHUGを利用し、支援の必要な方のスペース確保の想定も行っている。
- ・毎年6月に世帯家族調査を実施し、避難行動要支援者名簿を作成している。自主防、民生委員・児童委員、行政（危機管理課、地域福祉課）、志太消防本部が管理。
- ・個別計画作成について、要支援者リストの対象者は家族の支援が受けられない方が一人1枚作成。世帯調査についても、単身高齢者については、記入方法について助言等が必要で、正確な把握ができないのが現状。
- ・福祉避難所設置については、一般避難所が立ち上げられ、その中で必要と判断された場合に福祉避難所を立ち上げるという流れ。福祉避難所は人や物が揃わなければ立ち上げは難しいのが現状。ただし、毎年、当事者の会が主になって市の担当者、危機管理課と一緒に福祉避難所設置訓練、宿泊訓練を実施している。昨年度は宿泊訓練は実施していない。

## （藤枝市）

- ・災害発生時の避難行動については、市で作成した冊子を全戸配布しており、各自で対策を立ててほしい。水害については、河川課が対応する。重度心身障害児者に対応した訓練は実施していない。世帯台帳と個別台帳を作成し、災害時は台帳を基に把握していく。
- ・指定避難所の運営については、自主防、市職員で対応。必要な物資については無線等で連絡を取っている。自主防には避難生活計画書を毎年提出してもらい部屋割りやテント割を行う体制になっている。
- ・自主防災組織ではHUGを利用しスペシャルカードやオリジナルカードを作成している。1, 110名が講習を修了している。

## （牧之原市）

要援護者（災害時要支援者）台帳登録は新規登録、登録の確認を含め民生委員が毎年各世帯を回り確認を行っている。地域の自主防災組織が防災訓練時に登録者の安否確認訓練を実施。

・避難所には地区担当の市職員が待機している。避難行動については、水平避難（安全な場所への移動）と垂直避難（危険が迫っている時に建物の2階へ移動する）がある。テレビ等で情報収集を行ってほしい。大規模災害時は学が避難場所になるケースが多いが、規模が小さなときは公民館が避難所となる。「我が家の防災対策」を配布しているので参考にしてほしい。

・地域防災訓練では福祉班（高齢・障害者）が要配慮者を地域の公民館から福祉避難所へ移送する訓練を実施したが重症心身障害者の移送を想定した訓練は行っていない。

・一般避難所に避難していないことを確認する方法として民生委員が要援護者リストや個別計画がある。物資は市から避難所へ移送する。ボランティアの受け入れは社協が行い、在宅避難者の把握もボランティアが担うのではないか。

・自主防災組織ではHUGを利用し運営をゲーム形式で行っている。134名が講習を修了している。

（島田市）※聞き取り調査を実施予定。台帳を利用し、自主防から要支援者へ電話連絡を行うことを想定している。

## 3. 防災研修への参加

・富士圏域自立支援協議会重症心身障害児者部会

「出会える、学べる後援会～災害！その時どうする」

・重症心身障害児者医療連携研究会

「重症心身障害児者と災害」

・県重症心身障害児（者）を守る会要援護者支援シンポジウム

「熊本県地震に遭遇して」

#### 4. 防災に対する取り組みまとめ

静岡県重症心身障害児(者)を守る会で実施したシンポジウムでの熊本地震を体験した岩崎氏からの報告にて、日用品や医薬品の備蓄や電源の確保、地域の協力を得るための防災訓練の参加について、「自助」、「共助」の重要性を再確認しました。また、防災は広域的な課題であり、他圏域でも防災をテーマに協議されているため、他圏域や他機関の取り組みを参考にしていくことも有効です。

医療連携研修では、医師より医療ケアに必要な発電機や手動、足込み式吸引機の紹介や胃瘻、経腸栄養剤の代替品の説明、吸引カテテルとの注射器（シリンジ20mlまたは50ml）での応用の助言。施設間での物資輸送の協力体制や在宅の方への物資支援を届ける方法等を学びました。

市町防災担当課との聞き取りや意見交換では、災害時の避難行動や指定避難所（一般避難所）での対応は共通した事項であり、市町の立地として沿岸部や山間部での違いはあるが大きな差はないと思われます。ただし福祉避難所については各市町の特色や対応に違いがありました。重症心身障害児者のケースに対応できるよう、市町の担当者を引き続き協議していく必要があります。

防災をテーマに平成27年度より検討を始めました。圏域内で情報共有を行うことで防災意識が高まり、各市町の自立支援協議会において検討がなれていることは大きな成果だと思えます。

#### 5. 今後の志太榛原圏域における防災をテーマにした検討について

志太榛原圏域において市町自立支援協議会にて防災部会の設置や、重症心身障害児(者)支援部会で防災対策の協議が進んできました。福祉避難所の在り方と共に、重症心身障害児(者)の防災対策を協議していくことで、電源の問題、物資調達の問題、医薬品の確保、トイレの問題など様々な課題が見えてきます。「自助・共助・公助」を軸に各市町の自立支援協議会にて報告や協力を行い、当事者や事業所、福祉課や防災課との協力や連携を積極的に進めていきたいと思えます。

## 中東遠圏域自立支援協議会 重心部会

### 「みんな集まれ！『ぼうさい』検討会」記録

日時：平成 30 年 10 月 20 日(土) 13:00～16:00

場所：福浜会 あにまあと

お断り:逐語形式で記載していますが、聞き取り・漏れ等多数あり、文脈が通じない部分もあります。御了承ください。

#### <開会>

白井:わくわく生活検討会の開催は、今回で第三回目になります。先月「わくわく」の、楽しんで頂くボウリングをまずは開催。多くの方にきていただき楽しく過ごせました。今回はぼうさいについて皆で勉強し、今後の中東遠圏域の障がいを持った人々が災害の時にどう対応するか考えたいと思いました。

今日は浜松で、未来 TALK で活躍している宮本先生・遠藤先生に来ていただきました。今年で 6 回目になるサバイバルキャンプ、防災キャンプを開いてらっしゃいます。両先生に、キャンプを通じて見えてくること、中東遠圏域で活かしていけることを中心に話を伺い、皆さんとともに活かしていければな、と思いディスカッションをしていきたいです。少し長くなりますが、間にお楽しみもあるので最後までお過ごしください。

#### 1. 講演「防災に関する浜松での取り組み」 講師:宮本 Dr.、遠藤 Dr.

宮本:皆さんこんにちは。浜松医療センター小児科の宮本と申します。一般社団法人未来 TALK。後で話をするが、子どもたちの未来を支えていきたい、と。医療・保育士、最近では弁護士も入って集まって行っている。何か出来ることはないか、という所で始まっている。

6 年やって、どういう思いで運営しているか、何を学んだか、ということを見て頂きたい。レジュメが用意できなかったので写真で。リラックスして聞いて欲しい。

2011 年 3 月 11 日東日本大震災。地域差が多い。何が出来るか。もともと福祉避難所という言葉を知っていると思うが、設置・運営がうまくいかない。一般避難所に複数回行って、初めて福祉避難所に行ける。指定は受けていても公表はされていない。最初からいけるわけではない。一般避難所を経由して移る、という流れをとっている。実際に震災のときにどういう事が起こったか。実際の指定避難所が機能したのはゼロ。ほとんど一般に知らされていない。そこに辿りつくまで転々とした。制約が多すぎた実態がある。

僕たちは専門家の集まりだが、防災については素人。東日本から何か学べないか、思いが高まり、よい避難所を作ろうじゃないか、ということころから始まった。2013 年。準備委員をかねた勉強会の様子。浜松の防災の情報発信をしているグ

ループがあり、そこで勉強会をした。妊婦さんと子ども、障害を持つ人、老人、外国人が不利になる。そこを考えたいと思った。

サバイバルキャンプ。サバイバルという言葉も過ぎるかと思ったが、いろんな意味で生き抜かなければならないので。第1回が2013年9月22日に浜松の青少年の家で行った。知的・発達・肢体不自由等の診断を受けている人を対象にした。目的は4つ。

- ① 障害を持つ子が仮想避難所体験を通じ、非日常生活への適応力を高める。
- ② 家族にとってワークショップや仮想避難所の体験を通じて、何が必要で、何を準備するかを体験し、学ぶ場。
- ③ 自分たちが避難所運営にあたり、障害を持つ子と家族に必要な配慮、支援を見出す。
- ④ 障害を持つ子と家族について、市民の理解を深めるために、社会に向けて発信する。この子達の現状を知ってもらいたいという思いで始めた。

第1回の写真。ワークショップ、欲張って3つ。色んな人に声をかけ、来ていただいた。原田さんにも来てもらい、防災グッズを作った。新聞紙でスリッパを作ったり、ビニール袋で雨合羽を作ったりした。毛布を丸めて担架にする。けが人を運んだり。防災グッズを知ってもらおうということで、エネジン株式会社に来てもらい、LPガスの発電機、停電しても水が供給される物、ダンボールトイレ等の紹介、100均で揃う防災グッズ。いろいろなものが手に入る。それを紹介した。

子どもたちはワークショップ、作っている時は楽しいが、座学になるとじっとしていられないので、スタッフを使って折り紙等を用意した。一生懸命折っていた。紙やマジックがあれば一生懸命遊び始めたり。

場所を変えて。最初浜松病院をお借りした。第2回は青少年の家。実際に設営する所をやった。下(の写真)はオムツを替えるスペースを、ダンボールを使って行った。

非常食も非常に充実してきた。一生懸命準備をした。アルファ米。お湯だけあればご飯が作れる。それでカレーを作る。食料班も専門班を作り、それに当たってもらった。

三番目として、夕方に、災害に備えよう、家族で考えようと題して浜松の危機管理課に来ていただき、話をしてもらった。その間に子どもは遊んでいる。暗がりではキャンドルをともして、デコレーションしたりして。スノーズレンみたいな雰囲気広がって、子どもも喜んだ。遊びを自分たちで考える。手をかざしたり、影絵遊びをしたり。

トイレは三種類のトイレを用意した。水で流せる汲み置きトイレ、ダンボールトイレ、新聞紙をちぎって利用するトイレ。体験してもらった。しかし、汲み置きトイレ準備したが、実際の声を知ると、上水道が駄目であれば下水道は機能しない、つまり流せないとのことで、それ以降汲み置き式トイレはやめた。

夜。遊びの後はよく寝てくれる。僕たちも心配していたが。自閉の方もいる、落

ち着かなくなる方もいると心配していたが、驚くほど静かに寝ていた。それでも一人、夜中に落ち着かなくなった方がいて、急遽ダンボールで別の部屋にベッドを作って休んでもらった。

翌朝の様子。よく寝ている。安心して寝ている。僕たちは医療班を作り、見守り・声掛けをしていった。次の日には朝ラジオ体操をして片づけをしていった。朝の食事もなかなか豪華。ひじきご飯、山菜ごはん。磐田市から提供を受けた。卵のワッフル。温かいご飯にほっとしたという声を受けた。

2年目、場所を変え、ゆうあいの体育館を利用した。福祉避難所の設営と移送訓練を、おそらく全国で始めて行った。参加者は15組42名、スタッフ60名。100名近く参加した。

ストーリー。発生から3日後、福祉避難所が開設され、地域から福祉避難所に移り生活を始める、という設定にした。発達障害、知的障害、人工呼吸器、カニューレの方等と共同生活を送ることを設定した。

居住スペースの割り振りから始める。最初は事前に伺っていた。聞き取りから始めると時間がかかりすぎたので、それ以降事前情報を元にあらかじめ割り振りを行った。2回目は乾パンを試してみた。ジャムやマーガリン、スープを作った。なかなか乾パンは難しい、という意見だったが、工夫してみたかった。

元石巻支援学校長の櫻田博先生に来てもらった。自分たちの生徒と福祉避難所を両立して行った、という話を伺った。浜松の危機管理課に今回も来てもらった。毎回になるが、今回は子どもたちの遊びを考えた。遊びが子どもたちにどういう効果を与えるか。新聞紙をちぎって作るプールが大好評。横断幕みたいなものを作ったり、ダンボールでスキーごっこやキャタピラごっこ、子どもたちは驚くような遊びを考案する。部屋も自分で作ってもらった。マジックで色々書いて、窓を作ったりするのが興味深く、自分の居場所を作っていくんだ、と思った。遊びは菓なんだ、ということも思った。大人にも余裕が出る。どう遊ぶか。それも訓練なんだ、と思い、本を作った。未来 TALK でダウンロードできる。

ミキサー食をエネポで作った。これも好評だった。実際に説明や、太陽光で充電・発電できるアンカを作った。救護室に赤い目印が出来、便利だった。ワークショップではコンロを作った。使い古しの食用油を使い、コンロが出来る。これで十分煮炊きが出来た。やってみて。ペットボトルのふたに穴を開け、シャワーを作る。これで身体を洗える。少しの工夫で生活を広げられることに気づいた。いろんな遊び、光を使った遊びをして。座談会の様子。肢体系の方、発達系の方と分けていろんな話を聞くことができた。地域のつながりを大切にしていきたいと思った。

サバイバルミュージック…時間がないので音を出すのはやめるが、音楽家の方に来ていただき、その場に合う音を利用して。身近にある音を聞いて子どもたちはぐいぐい入っていき、とても楽しい時間を過ごせた。中日新聞・静岡新聞にも取り上げてもらい、知ってもらおうということも出来た。

3回目、+アースというグループがあり、そことコラボした。事前に10月17日に

行った。この時は外国籍の方も2家族参加して、そこをサポートするために浜松にある災害時多言語ボランティアという人に来てもらい、言葉のコミュニケーションをどうやってつないでいくか、実際に体験してもらった。ボランティアコーディネーターにも来てもらった。これが力をさらに高めた。

翌年、2016年から、西部特別支援学校、学校でキャンプをやろう。これが4年目。PTAが主催し、それを手伝うという形で行った。翌年は我々が行いイベントをやった。ボランティアセンターに情報を集め、どこにどういうニーズがあり、積み上げるかというのを実際にしてもらった。役割分担も分かってきた。スムーズになってきた。災害ボランティアコーディネーター、とシャツの色分けをしていった。

学校の先生方がコンサートを開いてくれるようになり、これが非常に好評だった。座談会の声、一つ一つ紹介できないが、得るものが非常に多い。福祉避難所にどのようなものが必要か、等がわかる。生活を取り戻す。遊び、物・人・場所が不可欠だと毎回感じている。物に関しては普段遊んでいるもの、各家庭で確実に準備する。人や場所についてはそうは行かない。一般避難所においても顔なじみを増やすことが重要だと声をもらっている。普段から地域と交流する。自治会長さんのところに行き顔を知らせてもらい、避難訓練に参加する、等。通いなれた場所で福祉避難所の指定を取ってもらい、これも大切。

避難所に来られないと言う方に、毎回自分達聞くのだが、体験を通じて避難所にいけるか、と聞くと「それは無理。出来れば行きたくない」という声が多い。慣れた場所、というのがすごく大きい。ベッドをどうするか、というのもある。家の機能が残っていたら、自宅避難も大切に考えなければいけないと知った。その為は何をすれば良いか。地域との接点を保つ。工夫をする。熱源の確保、ペットへの対応等を考える。これは個人的に考えただけでは無理。自宅に避難していることを支援者は知らない。避難者用支援者マップに登録し、自治体や民生委員と情報共有することで体制が作られる。それなしに自宅での生活は難しい。出来れば避難所にきてもらいたいと市は言うが、参加者に聞くと難しい、というのがほとんど。

一番最近。今回浜北特支を借りて行った。修了証を用意し、お渡しする。じっくり考え、ばっちりサバイバルされました。これ、私が考えたのだがどうだろう?!これを渡して、これからにつなげてもらいたいと思う。

最後のスライドになる。熊本地震・福祉避難所は機能しなかった。104人。熊本では1700人の準備をしていたが、わずか104人。これは知らされていなかったこともある。実際に、家が使えれば家にいたいと思う。いろんな選択肢が選べるように体制を作らなければいけないと思う。これからがんばっていきいたいと思う。

遠藤：防災キャンプ、最初の3年間の報告書を作ったので順番に回覧して欲しい。続いて私は、まず未来TALKは割愛。今回、災害起こったらどうなる、というのを田中先生の話を中心にスライドで。まず、3月11日の話。宮城県で発生から2週間後の唐桑町の写真。宮城県の中でも、被害が大きかった地域の状況。コンビニも全部つぶ



れている。

先日浜松も停電したが、この写真は震災1ヵ月後の状態。空。物流が機能していない。物が来ない。仙台の様子。門脇小学校。石巻市の一番海側にある小学校。とても学校がどこにあるのかよく分からない。地図で見ると、津波が来なかった地域があるが、なぜかというところすぐ北側に山がある。そこに支援学校があるが、この地域で唯一被害を受けなかった。櫻田先生はこの校長先生だった。皆を受け入れよう、と判断して福祉避難所として運営した経緯がある。

日和山、すぐそこが海。当時震度7は南三陸中心。全体的に大きな震度。全国的に18,550人の方が亡くなっている。避難者31万人。医療現場としては、よく阪神大震災と比較されるが、阪神は外傷系で半数が病院受診。東日本はほとんどが津波で、亡くなっている方が多かった。17台ある救急車、発災から出動したが、その後津波が来て12台戻ってこないという結果になった。

南三陸町の津波が来た映像。先ほど宮本先生が言われていたが、手帳を持っている人の亡くなる率、一般0.8%、障がい者は1.5%。約2倍。石巻では約4倍だった。津波の来た地域は非常に亡くなっている率が高い。内訳は肢体不自由の方が半数。何らかの身体障がいの方が多い。逃げ切れなくて自宅でなくなられた呼吸器の方。体が大きくて運び出せなかったことを新聞が掲載してくれている。教訓としては、「自分が生き延びる」。で、その後は安全な場所を確保する。どんな備えが必要で、困ったときにどうするかを考える。

命が助かることが大事。その後どうするか。薬、電源がなくなる。避難所に物資は入るので、取りに行かなければならない。家を離れられるかどうか。ストレス、難しさがある。今回の停電もそうだが、医療的ケアをされている方に電話をして安否確認をした。今回の東日本の時に電話が通じたのは6日目。それまで電話すら使えなかった。どこで何をしているのか分からなかった。ようやく電話がつながるようになり、順次情報が入ってくるようになった。阪神大震災のときの言葉の紹介だが、電話が「一人ではない」という安心感につながった。

6日目頃から携帯電話がつながるようになった。3月19日、石巻のご家族と連絡が取れた。そうした電話がつながると、どういう風に過ごし、何に困るかが分かってきた。オムツに関して、高齢者と子どものものはよく送られてくるが、学童期のサイズがなかった。自分たちがニーズを発信しよう、ということで、医療者同士のメーリングリストで情報発信してくれたので、何が必要かわかったので、具体的にオムツを出しましょう、とどんどん送るようにした。

この時の問題は、どうやって物資を運んだらよいか、だった。このときは大規模だったのでまず東北に物資が届かない。医療機器会社に相談し、一度東京の本社に物資を届け、東京から緊急車両で仙台に運ぶという仕組みを作ってくれた。アイデアやつながりで話が進んだ。後は人力で会社の人々が毎日のように送り届け、独自の物流ルートを作った。これは東海地区には必要。東名・新東名は止まるので、どこかに物流拠点を作らないといけない。名古屋か東京だが、どちらも被災しているかも

しれないが。その流れをやってくれ、仙台から東北各地に運ぶ流れを作った。ニーズの収集は、避難所の保健師がヒアリングし、家族が保健師に言い、ニーズを拾い上げ、連絡をしてもらった。そこに東京から物資を集めた。家族には学校の担任がヒアリングをして、県教育委員会に届け、「拓桃(つばさ静岡のようなところ)」に届けた。電話が届かない時には巡回をされていていった。

信頼関係のある、普段から仕事の信頼関係のあるところがキーになった。拓桃からどんどん物資を配送した。

景山さんという方。医療機器会社の方。その仕組みを作ってくれ、仙台各地に荷物を届けてくれた。ちょっとした笑いが前向きにさせてくれた。たくさんオムツあるからいいわよ、という出し合い、物流に出すという流れ。お互いに、共助という流れになった。

当時ガソリンが手に入らず、ガス欠になりそうだったとき、たまたま医療機器を使用している患者さんがガソリンスタンドをやっていて給油してもらったり。まさに共助の部分。大学生も回ってくれたり、学校の先生、保育士さんもいろんな所で協力してくれた。大阪や東京から PTOT 来てくれたり、阪神ファンの人が京都から来てくれたり。

アウトリーチが大事。病院で待っていれば良い?そうではない。誰も来ない。来れない。こちらが出ればよい。

これからの防災について。資料を見ながら…生活備品、避難時の支援、福祉避難所、医療機関との連絡。電話が今回つながらなかった。個人的なつながりがとても大事。今回メールや SNS を活用して発信した。地域のネットワークも大事。

備蓄は1週間分があっても良いと思う。できれば2箇所、家と学校とか、家と靴とか。荷物を分けておくのが習慣としてあると良い。それぞれに3日間ずつとか…。

小児科学会が作っているヘルプカード。小児科学会のホームページでダウンロードできる。こういうのがあると良いと知ってもらったり、独自に作っても良いと思う。

石巻は4倍の被害者があった。女川町は2倍。津波で被害の大きかった所は大きい。被害の少ない所もあった。なぜか?普段から地元の中学校に通い、地元の防災訓練に参加していた。地震があった時にすぐに来て、避難所に連れて行ってくれた。これが良かった。出来るだけ地域の防災訓練に参加すること。実際80人中4人しか参加していなかった(仙台)。

災害時用支援者避難支援プラン。登録している人が増えていると思うが、当時知っていた人は80名中13名。さらに登録していた人は8名、10%を切る。まず登録する事が必要。

避難所に殆どの方が行かなかった。10%。3割が親戚、その他は自宅。避難所は知っていても福祉避難所を知らない人が37%。宮城県。

なるべく通っている所、支援学校や生活介護が福祉避難所の指定を受け、災害時

そこを利用するという契約を結んでおくのが大切。いざというとき責任感を持つ。何かあった時にすぐに行ける。この流れを作ることが大事。とりあえず自分が逃げる。自分が逃げると回りも逃げる。

後は、エネポとか足踏み式吸引器の準備をしよう、というところで。総一郎先生の本、これを読んでもらうと詳しく分かる。東京防災という本がある。これは非常によく出来ている。とても良い。全部ネットでダウンロードできる。東京都が作ったもの。寝室にはベッド以外置かない、等。家(自宅)の写真。棚のつかえ棒だが、段ボールの箱を詰めておくだけでストッパーになる。ちょっとした工夫で倒れない。車にも避難する。テントとかシェラフとか、自分も車に入れているが、この前の停電では地下駐車場からあがって来れず、使えないということが失敗だった。

なめらか食。天野フーズが作っているもの。水入れるだけでリゾットになったり。ローリングストック法。普段から非常食を食べる。最初の3日間は家のカップラーメンとか。残りの4日分を非常食で補おう、という考え方。月1回食べ、買い足すと常に新しいものがある。冷凍食品等、選択肢が広がり賞味期限切れになることもない。

後はお手元の資料を見てもらいながら。ヘッドライトがあると、両手が使える。簡易トイレは絶対必要。ペットボトル。現金。キャッシュレスは機能しないので。この担架、一人で運べます。ベルカ。猫砂、意外に消臭に良い。習志野市が作っているスタイ。

停電。ヤマハの本社だけ明るい。新聞に掲載してもらった。いろんな声がある。

エネポ。偶然停電の少し前に購入した家庭があった。早速使ったのだが、36本カセットボンベを買っていたが、一日半でなくなりそうだった。夜は音が出るので近所迷惑になる。夜使えず、蓄電池も必要だった、という声があった。夜は蓄電池から電源を引っ張ってくる。

加湿器が最初電力を使うので、電力が足りなくなり人口鼻で代用したが、大変だった。病院も回線がパンクして使えないと自分の所(携帯)に電話が来た。個人的にDr.の携帯電話に連絡して向かってもらったりした。

マンションの9階で住んでいる人、数日だったら家で過ごせるように準備していたのだが、長期化したらどうなる?という不安がある。

緊急対応を行った数。聖隷浜松4名、浜松2名、医療センター1名+1名、磐田1名、友愛2名、自分達3名。電池式のモニターを準備しておく、足踏み式吸引器を準備しておこう。

共助の部分、いかに近所の協力を得られるか、知り合いを作れるか。物を取りに行ってもらい、物資を持っていってもらい、等。どうやって病院に行くか。これも問題になる。病院に電話が繋がらない。SNSの活用。そこの連絡網を作らないといけない。クラウド化したところに医療者間のプラットフォームを作る。熊本の時にはどこの病院があるか?等、当事者ではなかなかできない所を行うネットワーク。どこの病院が停電するのか分からない。そこもクラウドに乗せることが必要。

今回はどの病院も余力があったが、実際北海道の地震の際、札幌では、病院でキャパシティーオーバーになり断った、という事例があった。実際地震になるとそうなる。数日間は自分たちで生き延びる。余裕が出来たら病院に受け入れてもらうという想定をしておいたほうが良いと思う。

後は当センターで出た課題。利用者の方3日分の食料しかないが、より長期化したり、他の人が来たら食糧・トイレの備蓄をしないといけない。物資の拠点化に自分達になった方が良いと思う。そこから発送するという流れを作りたいと思う。

## 2. 実践報告・会場トーク「志太榛原圏域の取組みを聞き、この地域を考えよう」

岡村：改めまして、岡村です。近いようで遠い志太榛原のSVです。本日実践報告で、簡単だが取組みを報告したい。配った資料にもあるが、中に入っていない物もあるが、見やすいほうを見ながらリラックスして。駿遠学園という所で働いている。少し前まで知的障がい者の入所施設で働いていた。重心の世界はまだまだ素人だが、勉強させてもらいながら。

一つ目に、志太榛原のこと。基本情報になるが、4市2町で形成されている。人口は47万人程度。障害者手帳の人はその中の2万1千人。それぞれ種別の内訳を載せている。その中で福祉サービスの給付者数が3,550人。22人に1人が手帳を所持、そのうち6人に1人が福祉サービスを利用している。

主な産業はお茶、みかん、かつおやマグロ。各市町に一つは温泉スポットがある。福祉の業界だと課題やネガティブな話題になりがちだが、地域作りにおいては地域のストロングポイントも含めて考えられれば素敵だな、と。わが町の自慢の産業とか、自慢のお店もミックスしながら今後の支援を考えていければな、と。ゆるきゃら、4市2町、全部で12キャラいる。しっぺい君、家康君と直虎ちゃんがいるが、藤枝のゆるきゃらの藤江さん…。

本題に入って。平成28年度に実態調査を行った。数値上だが、3歳から64歳の人。人口47万人に対し、324人。そのうち在宅生活が257人。施設入所が67人だった。続いて各市町毎で分ける中で、18歳未満の人と18歳以上の内訳は、122人が18歳未満だった。18歳以上、202人という数字を覚えてもらえれば。

次のスライド。うち医療的ケアのない人が71%、ある人が29%。内訳。多くの方が経管栄養、気切・吸引。その次の年の取組みで、昨年度中東遠も含む各市町で第5期の障害福祉計画が策定された。社会的資源がどれくらいあり、サービスの見込みがどの程度見込まれるのかを調査した。志太榛原4市2町の計画を合体させ、社会資源をまとめた。ご覧の通りの数とサービス。生活介護が10事業所、230人分。先ほど18歳以上の方202人という数字があった。2年前。今は定員一杯いっぱいに近い状態になるということが分かってきた。

生活介護に続いて課題が短期入所。圏域近隣の指定事業所を乗せたが、医療的ケアのある方の受け入れがある所がほとんどない。藤枝市立病院1床のみという状況。さらに2ヶ月前の予約が必要で、緊急利用が難しい。短期入所の利用開発も課

題。

続いて圏域の重心部会のことについて。重症心身障害児者支援専門部会。児童相談支援センターの職員にも参画をしてもらいながら。子ども支援の部分も考えようとスタートを切った。いわゆる支援者が集まる場もあるが、当事者が集まる連絡会も持っている。県の重心部会にも参加しているが、圏域は親の会が元気が良い、という印象がある。この元気を市内・町内・圏域サイズで活動してもらいたい。6団体。守る会のメンバーも入っているので、当事者団体連絡会も重心部会にぶら下がる形である。

これまでの取組み・出来たこと・進んでいること。重心部会は必置ということで、どこの圏域でも設置されている状況。

課題について。一番上の部分、卒業後の生活介護の不足。さらには短期入所の受け入れ先。市内。重心児者の支援は複数の町をまたぐが、その専門性を持った相談支援事業所の不足も共通認識。保護者の当事者団体。若い保護者の方の参加が最近あまりないということで、ぜひ参加してもらいたいなあ、そういう場を設定していきたいと思う。12月19日に「しだはい、はなそ〜かい」。固いイメージがあるので、ひらがなにしてお柔らかくしてみた。合わせて短期入所の受け入れ先。

医療的ケア児のコーディネーター養成研修。志太榛原圏域も子ども病院から地域に戻ってくるときの支援体制等を協議検討する場が必要。圏域サイズで行っているが、市町サイズでもこういう協議会があって、個別の課題を積み上げながら地域の課題の上げ下げ、連動・連携している部分が今後の肝になっていると思う。

八木：続いて。手元の資料大きな字のものから。スライドでも出すが、見えにくいので。抜粋している。年3回協議を行っている。各市町における重心児者の防災対策ということで、平成28・29は各市町の担当課に出向き聞き取り調査を行っている。要援護者、災害時用支援者の台帳登録の利用や福祉避難所開設の状況を聞き取っている。

各市町の取組みについて、平成28・29年度のもの。毎年見直しされていると思うので、あくまでも参考として。

各市町の取組みについて、島田市についてはまだ聞き取り調査がされていない。  
(詳細は資料参照)

- ・ 自助・共助の重要性が再確認できた。
- ・ 医療連携研修を行っている。
- ・ 福祉避難所について、市町の特色や対応に違いがあった。
- ・ 毎年聞き取りをしないと、新しい情報はどんどん出てくる。市町の担当者も頑張っている。
- ・ 圏域で行ったことを市町に落としこいていこう、という考えをしている。かなりの市町で防災の意識が高まり、プロジェクトが立ち上がったたり、ハンドブックを作ろうという意識が出ている。良い結果だと思う。

白井：志太榛原圏域の実践も聞かせて頂いた。その話も踏まえて、皆さんから是非聞きたい事があつたらまずは遠慮なく挙手をしてもらいたいが…どなたかいかがでしょうか。事前にアンケートも戴いているし、今回の広域停電も経験されて。思うこともあるかなあ、と思うが…いかがでしょうか。当事者の方には是非発言をいただけないかなあ、と思うのだけれども。いかがでしょうか？

牧野：PTAでもずっと防災をしてきたが、毎年毎年繰り返しているうちに疲弊してしまう。こういうことをやらないと大事だな、と思った。偶然だが、櫻田先生の講演を聞いていた。PTAでも呼ぼうとしたが、交通費がかかり予算があり呼べない。実際に聞いた人の話を聞くと、本当にリアルな話が聞けたので、こうした時に聞くのが大事だと思った。この前の停電、家も3日間停電した。吸入したり、呼吸器も使いたい時間があつたりして。1日くらいと高をくくっていたら電気が来る気配がなく、どうしたらいいのか？とっていた。たまたま発電機を買っていて。

LINEのグループを作ったのだが、皆でどこが大丈夫だ、何が使える、という情報が集まったので。助け合う通信手段があつたのは有難いと思った。遠藤先生がくれたメールも、とても安心があつた。気分が楽になった。ひとりじゃない、どこかで助け合う、という事がとても大事だと思った。この3日間で、実践してしまった。したくはなかつたが、足りないものが分かつた気がする。

防災センターにも行くが、避難所に頼るな、といわれた。特に自閉症の方とか、他の人と暮らすのが難しい方はそういう場所を作ってもらって助かつた。もっと広い範囲でお母さんたちとつながれるグループを作ればと思った。

白井：他にありますか？今回の停電のことで、病院としては、私側からのアプローチとしては、呼吸器をつけて生活をしている人、24時間呼吸器をつけている人達が最優先で私の方から連絡をした。そのうちの5人を病院に収容した。その中で岡田さんは、三日間ご自宅で呼吸器をつけながら生活をされ、復旧するまでぎりぎりだったが、体験談を聞かせてもらいながら思う事があつたら。

岡田：いつも白井先生にお世話になっている。中学校位から呼吸器をつけていて。東北大震災の後に発電機(エネポ)を持ってきた。3日間あれば何とかなるかと思つたが。夜中は使えない、騒音が近所迷惑になる。夜中はバッテリーに充電させて、インバーターを使って。でも三時間位しか持たなくて。呼吸器のバッテリーも12時間位で、何とか。酸素ボンベも持っているが、心配で心配で。何とかならないかとバッテリーを濃縮器につないでみたが、それをつなぐと他のものが動かない、という事がある。三日目に受診の日で、まだ停電していたので白井先生にお願いをして入院の手続きをしていたら復旧した、という状況だった。これからバッテリーを、容量大きいものを持たせて対応しようと思う。

白井：福祉・行政の方で発電機に対しての補助体制があります、とかありますか？今回アクセスは出来た。橋が通れなかつた、道路が崩壊した、ということではなかつた。そこまで含めて考えると難しい面もあると思つたり。かなり自助努力をされているのは

実感としてあったが、それでもまだ足りないというジレンマも感じられていると思うが…。是非行政の方にもおいでいただいているので。掛川市の行政の方、危機管理課の水野さんいらっしゃいますか？取組み等教えてもらえたら。

水野：掛川市の水野です。今回台風の時には大変だったと思います。行政だけれど、情報発信が出来なくて。皆さんからもうどういう形で復旧が進んでいるのか、自分たちもつかめなかった。今回の教訓も含めて、中部電力に正確な情報をもらい、知らせていくことを検討したい。

五日間から一週間位は自助・共助で持ちこたえないといけないと思う。病院は災害対応に追われてしまう。なかなか受け入れが難しくなると思う。開業医はそれぞれ市町の救護所に原則 72 時間対応する。開業医でも受診できなくなる。そこも含めて特にケアが必要な方にはその状況になることを想定して対応をして検討していきたい。

福祉課は分からないが、危機管理課で個人への補助はない。地域の防災会にはあるが、そうしたものを活用して、地域のつながりの中での電気の使用を又考えてもらえればと思う。

高橋：避難、発災後のことについて気になっている。三つほど。各市町にも…

① 一般の最初に避難する場所が一般の広域避難所。これほど障害の重い人達がどこそこ、あっちこっちに行かないといけない。これは絶対みんな思っているのに方針が変わらない。まず広域避難所に行き、福祉避難所が設置されたらそこに行く、ではまず行かない。自宅で過ごすことになる。何故そこが変わらないのか？色々志太榛原圏域でも話し合いをされているので、そこらへんの話が出ているのか。

② 指定福祉避難所でも、この施設だと重症心身障害の方を想定しているが、はまぼうでは知的障害が中心なのでどこまでの設備が必要、という違いが出てきた良いのか、それともマニュアル等が出て最低限どの福祉避難所でもこれが必要、という方向性が出たほうが良いのか。

③ 富士の方では緊急車両として施設の車が指定をされている。何かあったら動けるようになっている。そこに行き着くまでにそれをしようとした方が小林施設長さんだけれど、苦労があったと思うがそれはこの圏域で可能か。

後、ご本人、守屋さんから話があるので変わります。

守屋：当事者として、今回の停電に感じたことを…ただ、僕は比較的ケアもなく皆さん、ここに集まっている皆さんからすると比較的軽い方かと思うが、うちも 3 日間停電だった。発電機もなく、懐中電灯くらいしか用意していなかったのが実際。真夏だったり、真冬だったり、極端な季節だったら自分も体調悪くしたと思う。だんだん、僕、36 になるのだが、この年になると病院には風邪引いて行く位で、病院や先生とのつながりが薄くなっているのも事実。今日こういう機会を頂き、各先生いらっしゃるの、是非 SNS でつながればという話があったので、ここで出会った皆さんと是非 SNS 通じて知り合って、いろんな情報を共有・発信できれば良いと思う。

高橋さんが言ってくれたが、福祉避難所が最初の避難先でないと、移動は無理に等しい。せっかく磐田市さんとか、磐田ホットラインとかメールの情報も発信されている。袋井市さんにもあるので受け取っているが、行政のメールを通じてもっともっと高齢者や障害者に寄り添った情報を発信して頂きたい。地域のコミュニティFMや地方のラジオ局と提携を組んでそうした大規模災害が起きたときに障害者にピンスポットを当てたような情報発信がされる世の中になっていけないのかな、と思う。先生方始め、志太榛原、行政も一体になって僕たちを助けてください。僕たちも協力できることはしていきます。

白井：素晴らしいご意見だと思います。今話を伺って、

遠藤：情報を集約して、出せるものはスムーズに出さればな、と思う。そこにあたっては行政の協力が絶対に必要。行政とタイアップして、出してもらい、つながりを作る場をしていかないと。重心部会はそういう場になり得るので。お願いしたい。

白井：中東遠圏域だが、磐田市・袋井市・掛川市・菊川市・御前崎市・森町、それぞれ混在していた。当事者の方もそれぞれ磐田市だけ袋井特支に通う、卒業後も違う市町の事業所に通う、三次病院も浜松や静岡に通う等、圏域内で収まらないネットワークが大切になってくる。どこを活用してSNSしていくのか。そこも大切だと思う。個別の自治体も必要だが、自治体を越えた結びつきも同時に必要だと思う。停電時に、病院へのアクセス、電話が繋がらない。困った人、病院自体が繋がらないと言われた。私たちから自分の個別のピッチで直接家族の携帯に慣らすのが唯一つながったのが反省。困ったら電話が来るだろう、と待っていたのは反省だった。何とかなると良いかな、と思う。各自治体の取組みが当事者に届きにくい現状がある。日々行政の方も重心部会などの取組みでこうしなきゃ、と思っけていてもなかなかつながりにくい現状もあると思うので、そこも考えていかないといけないと思う。

サバイバルキャンプの話も聞いたので、こうしたことを取り組んでいきたい、磐田市・袋井市の行政の方でもし一人ずつ発言してもらいたいと思うが、いかがでしょうか？

栗田：磐田市の栗田と申します。行政の対応としては、先程の避難所・福祉避難所はどこも同じ流れになっていると思う。高橋さんから話があった避難所の事について、たびたび質問を戴くが…福祉避難所の協定をしているところが設営できるか、起きてみないと分からないので現実的ではないと考えている。一般の避難所で生活出来る人もいる。その時々で状況で判断せざるを得ない。仕組み作りも途についたところで、訓練を一部の事業所で始めた所。福祉避難所の協定施設で実際に訓練を実施し、地域や当事者の方も参加する所で、体制の見直しや課題が明らかになるかと。少しずつ準備を進めている。キャンプを行政でやれるか?という分からないが、そうした所が安心できる体制につながっていると思う。

今回の停電で、市内の福祉避難所と連絡を取ろうとしたが、多くの事業所で取れず、現場に赴いて確認をした。通所が多いが、月曜日に停電した所は休んでいた。実際の時に福祉避難所として機能するのか、準備をしないといけない。情報共有の



仕方をどういう風にするのかが教訓になったと思う。

白井：袋井市さんはいかがですか？

大高：大高と申します。4月からで知識も乏しくてつたない話しかできないが、磐田市さんが言った通り、福祉避難所はどういうふうかなあ、と思う。11の事業所と協定を結んでいて、そこの被災状況はどうかという確認、受け入れ態勢の下準備をした後に開設をしないとイケない。今回停電になり、自分も被災者の一人だったが、情報をどのように得るか。電気が来ていなくて、テレビやPCから情報が取れず、スマホを頼りにしていたと感じた。袋井市役所庁舎で充電コーナーを設けて3日目位まで受け入れをしたが、(10月)1日の夕方は会社帰りの方がかなり寄って、選挙の時にも見た事のない長蛇の列になった。スマホをどれだけ頼りにしているかを感じた。メローネットの話も出たが、そうした地域の情報を伝える事もツールを通じて。いかに災害時に信用出来る情報を求めているか、というのが大事だと思う。行政から高齢者や障害の皆さんに寄り添った情報を、というのはまさにその通りだと思う。一般の方の情報はもちろんそうした情報も提供していかないと、と感じた。

遠藤：福祉避難所に関して、3日目から開設、となっているが。普段から通所されている方は基本的に情報共有出来ていると思うので、意思表示をしておいて。そこからいける仕組みにしちゃっていると思う。メールからそのやり取りが出来るように連絡網を作れば良いと思う。事業所が準備できたら利用者・行政に発信した方が、受入側も準備が出来るので。高齢者の方が来るとなるとどんな配慮が必要か、というのが変わってくるので、事前登録制を検討して、SNSで連絡網を整備してもらえれば助かるかと思う。その辺は今後の検討で勧めていければ。

白井：あっという間に時間がすぎたが、この場でどうしても発言しておきたい、という方がいたら。

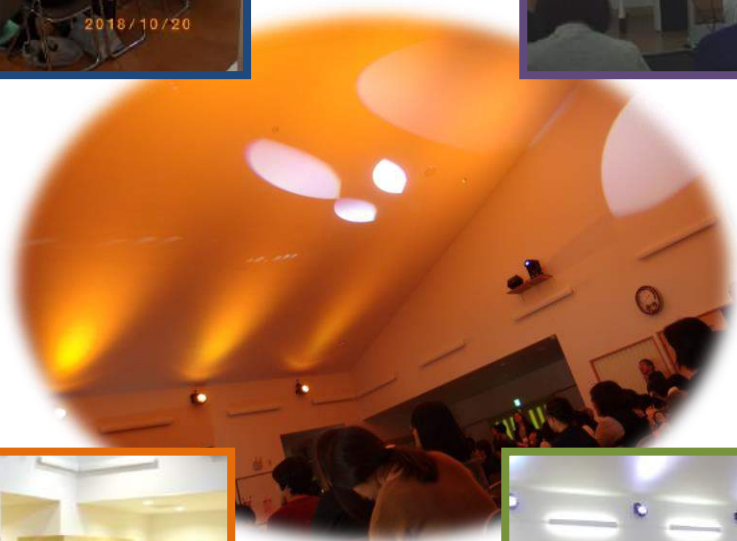
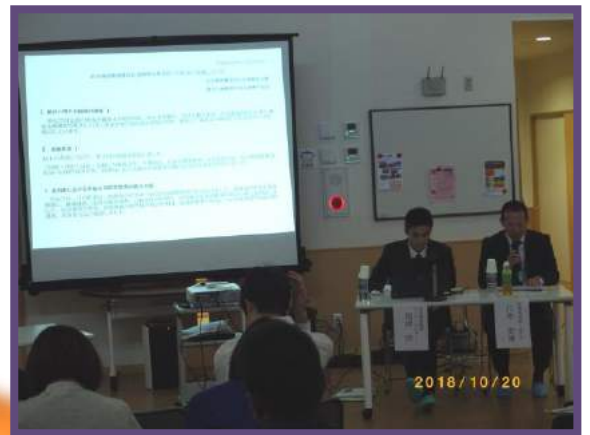
鈴木：あにまあとの利用をしている。磐田に住んでいるが、こういう生命に関わるケアはないが…。こうしたお医者さん達が連絡を取ってくれる、心配してくれるというのは良いなあ、と思った。守屋君が言ったみたい、同じ36歳になって、お医者さんとの関わりが全然なくて。こうした防災についても、自分達で自分の生命を守っていくしかないんだな、というあきらめる気持ちで。榛原の方の取組みで、重心の人の対策は考えていない、人数が少ないから…というのがあった。対象が少ないから、そんなことってなかなか出来ないのかな、と思う。ニーズが少なくても、助けを待っている人はいろんな所にいるのではないかと思う。当事者は自分のことしか考えられなくて。だんだん年を取っていくと、どこか出て行くのも足が重くて。通信機器も、なかなか持っていないくて、連絡の取りようもなく…。LINEも勉強しなくてはな、と考えたが、親がこの子を守っていくしかないのかな、と思う。

白井：ありがとうございます。様々な方がいらっしゃる、様々なニーズがある中で、どこから手をつけていくのが良いのか、改めて今日考えさせられた。最後、時間になってしまったが、貴重なご意見ありがとうございました。皆様のお聞きになりたいこと、十分答えられたか分からない。まだまだ話したりないと思うが、これをきっ

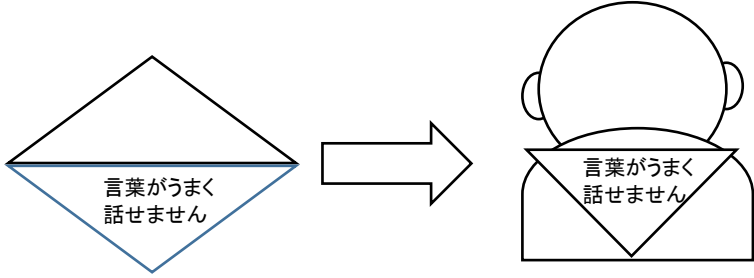
かけにこういう場を継続していきたいと思うので、前回の停電のことで明日は我が身、というのを実感できた。あまり悠長な事は言ってもらえないと思う。緊急に取り組んでいかないといけないかな、と思いを新たにしたい。貴重なご意見をありがとうございました。ディスカッションは終わりにしたいと思う。

### <閉会>

白井：長い時間最後まで参加して頂き、ありがとうございました。沢山の方に集まっただけ、無事に出来たことに感謝します。快く講演を引き受けて下さった遠藤先生、宮本先生。岡村さん、八木さんにも貴重な報告をいただきました。今日の会をきっかけに、すぐにでも取り組まなければならないことが見えてきたと思う。重心部会としても、継続していきたいと思う。今後もよろしくお願いします。



「ぼうさい」検討会・事前アンケート		ライフステージ	障がい種別
1	呼吸器を着けていて、停電時にバッテリーが3時間しか持たない。実際停電した際、電力会社から電話連絡が来たが不安も大きい。エネポを購入したが、他に出来る対策はあるか？	療育	重心
2	呼吸器生活一年半です。台風などで避難指示が出た場合どのタイミングで避難をすれば良いですか？機械の充電はある程度大丈夫だと思うのですが、避難しても電源が取れないと思うと不安です。	療育	重心
3	避難しないといけなくなった場合、福祉避難所に入れてもらえるのか心配。	療育	重心
4	一般的な配給食は食べられないので、非常食を用意しておかないといけないと思いつつ、用意しきれていない。	療育	重心
5	的確にすばやく安全な場所に移動させるにはどうしたら良いか？	療育	知的
6	実際に災害にあわれた障害者やその家族がどのようなことで困ったのか、又は良かった事をきいて見たい。	療育	知的
7	悪条件での集団行動ですので、どんなお子さんでもその中で生活する事は非常に困難だと思われます。今まで地震や水害等で被災された地域で、障がいがあることを周囲の人たちに理解してもらえず、トラブルになった事例や対策案があれば教えてください。我が家はそういったトラブルを避けるためにも可能な限り自宅で過ごしたいと考えています。避難所で生活する場合と比較してメリット・デメリットがあれば教えてください。	療育	知的
8	初めての場所等が苦手なので、避難所ですぐすことになった場合落ち着いていられるか心配です。	療育	その他
9	障がいがある方たちへの情報の伝え方や、災害時のストレスケア等、特に知的障害に関しては、見た目だけで障がいがあると周知されにくい場合もあると思うので、どのようにして周りに理解を求め、そしてどのように障がいのある方たちへの支援等をしていったらよいのか。	療育	知的
10	子どもがいる家庭でスムーズな避難を行うには。	療育	その他
11	言葉で伝えられない場合、どのように助けを求めるのか。自分の家も、名前も、表現の仕方、伝え方。	療育	知的
12	危険なことを認識できていない場合、本人が助けを求められるのか不安。	療育	知的
13	言葉で分からないので注意しなくていけないことなどをどうやって伝えるか。	療育	知的
14	安心感を…周りが落ち着かないと余計に不安になってしまうので「大丈夫!!」と思えるようにこちらがドシッと構えていないと…。	療育	知的
15	痛い、苦しい…自分で今どういう状態か伝えることが出来ない為しっかりと見ないとわかってもらえない…それがすごく心配。	療育	知的
16	薬はそろっているか(避難所に)。病気になったときの対応等…	療育	知的
17	日本で起きているいくつかの大きな災害のときに、特支の子ども達、知的の子ども、肢体の子どもの様子はどうだったのか。実際に必要な物はなんだったのか。今、私達が出来る最大のことは何なのか、を知りたいです。	教育	重心
18	時々、ツイッター等で拡散されるうそ…物資(タオルなど)が足りないと言われて、いらぬのに集まってしまうたり。そういうものを、どうやってうそと見抜くのか。本当はどこにあるのか。	教育	重心
19	食料、飲料、発電機など自宅に用意しておくことが大切とは思いますが、普段たくさん薬を必要としている子は薬も蓄えておく必要があります。考えただけで心配はつきませんが、何日分くらい用意しておくべきでしょうか？	教育	重心
20	防災対策…はつきり言って何もできていません。レトルトの介護食は通院や休日で使用するため予備は常にあります。只注入セットや内服は…。注入セットは1セットしかありませんし、ミルトン等も備えるのも躊躇します。実際どうなることやら…って感じです。	教育	重心
21	常備薬の非常用が無いので、地震で見つからない場合困る。	教育	重心
22	知らない人たちと、体育館などでの共同生活の難しさがある。	教育	重心
23	生活全般不安。	教育	重心

「ぼうさい」検討会・事前アンケート		ライフステージ	障がい種別
24	何をどれくらい用意したらいいのか。家には用意できても避難場所です使える便利なものは何かありますか？イス等の代替(持ち歩きできるもの)が知りたいです。	教育	重心
25	各地域のどこにどんな障害者が避難できる避難所があるのかもっと分かりやすく掲示したりしてほしい。	教育	重心
26	避難所生活をする事になると導尿しているので車での生活をするしかないかな。衛生面はどうなのかな？物資も届かないだろうな、と不安になります。兄弟がいるので実際どうなるのか不安です。	教育	身体
27	訓練に参加することが余りなく、有事の際にちゃんと避難できるか不安。	教育	知的
28	避難が長期になったとき、避難所での生活が不安。	教育	知的
29	地震災害のときに1番最終的に避難するところの説明が不十分なため不安(掛川市)	教育	知的
30	自宅から障害者の避難所がかなり遠い為無理なら車中泊か、他県に行くしかないのか(こだわりあり、強度の情緒不安定なので人に迷惑かけてしまう)	教育	知的
31	災害時の食べ物のこだわりはどうしていけばよいか悩んでいる。	教育	知的
32	袋井は福祉避難所が二箇所しかなく、災害時は優先しては入れないと聞きました。自分の身は自分で守るが前提だとは思いますが、家族が万が一の時、本人がどうなるか心配です。自治会の要支援者には登録してありますが…。本人がその場(避難所)に入れるかどうかで、援助が変わってくると思います。	教育	知的
33	避難所で過ごさなければいけない時、周りの方とトラブルなくいられるのか心配になる(落ち着きがない、声がうるさいなど)	教育	知的 身体
34	紙パンツやウエットティッシュ等、なかなか手に入らないのも心配である。	教育	知的 身体
35	聴覚障害の方でバンダナに「耳が不自由です」「手話が出来ます」とプリントされた物を首に巻き、見た目に分かりにくい障がいを回りに伝えられることを知ったので、「言葉がうまく話せない」など伝える手段になると思った。 	教育	知的 身体
36	「防災」という認識がないと思うので、突然の事に対応できるか心配です。精神的ストレスが増してしまうのではないかと思います。地域で避難しても、回りが気になったりして入眠出来なかったり、さわりだりしてしまい、周囲の方に迷惑をかけてしまうように思います。そうすると車で(個室状態)すごさないといけないと思いました。一人にはしておけないので、何かあった時も、二人一緒に行動を共にしなくてはいけないので母としても危険がともなったり、体力的にも疲れてしまいそうです。学校で何かあった時の方がまだ安心できますが、自宅の方が、心配です。	教育	知的 身体
37	災害時、福祉避難所で受け入れていただいた場合の実際の様子をお聞きしたいです。東北、九州等、大きな地震があった場所で、子ども達はどんな生活をしたのか、問題点、今後の準備等…	教育	知的

「ぼうさい」検討会・事前アンケート		ライフステージ	障がい種別
38	福祉避難所へ行くには、ひとまず「一般の方が集まる避難所へ行って登録しなければいけない」ときいていますが、一般の方との避難所生活はおそらく無理なので、どうすればいいか。不安はたくさんあります。	教育	知的
39	災害時のために、要配慮者として登録はしてあるが、実際はおそらく避難所で他の人と一緒には過ごせないのでは家が残っていれば留まる事になると思います。町から防災ガイドブックをもらったが、福祉避難所などのことは書いてないので、行く所はないのではないかと思います。	教育	知的
40	地域(自治会)内で、「要援護者」としてリストアップされているが、名簿を作っているだけで、具体的な個別の「計画」というのを一度も見ただけ。自治会の役の方の手を煩わせているだけのようには感じられないため、役所に「やめたい」と言っても、役所の方も国からの施策として取り組むように言われているが「やめないで欲しい」と。「要援護者」の死亡率を下げたい、とのこと全く機能していない。	教育	知的
41	避難所で集団生活が出来ることが心配	教育	知的
42	自分の症状を口で言葉に出来ないで困っています。絵カード等で、医師又は保健師さんと意思疎通ができると良いと思います。	教育	知的
43	7月の大雨の災害があり、知的障害で自閉症の(多動の)息子が避難所での生活が出来るとか?やはり絶対に無理です。周りから嫌な目で見られるのが目に浮かびます。	教育	知的
44	もし、災害にあった時、食料・水をもらう為に長時間並ぶ必要のある時、娘と並んで待つのは無理があります。そういった弱者に対する対策を各自治会や行政で、取り組んで欲しいと思います。	教育	知的
45	災害が起こった時に、避難所での生活に耐えられるはずもないわが子をどうやって過ごしていけばいいか。不安ばかりがある(家にはある程度の食糧の備えやテント等準備しているが)。	教育	知的
46	災害が起きた場所にもかわると思いますが、交通機関が使えなくなるとおむかえなど時間がかかり、子供達がパニックになってしまう事が考えられますが、どのように前から子供に声を掛けていけばいいのでしょうか?	教育	知的
47	防災地域訓練に参加していますが、広域避難所で実際、災害があった場合、健常者とは違い、本人には自閉症があるため、なじみずらに苦痛だと思われそうです。ですので、通学している特別支援学校での受け入れ等も考えていただければ、安心すると思います。	教育	知的
48	災害時どのように守られるか聞きたいです。	教育	知的
49	まだ一度も防災訓練に参加したことがなくて本当に地震が起きたときに大丈夫か不安です。	教育	知的
50	被災しても家にいられる限りは何とか過ごしようがあるし身体を休めることも出来ますが、避難所ではどうなのか。	通所	重心
51	発電機は病院とかにいけば借りられるとききました。避難所にも配置されるのでしょうか?誰でも使用できますか?	通所	重心
52	どういう状況になるのか、いまいよく分かりません。子どもに必要な物は最低限でも準備しないといけないと思いますが、どんな点が厳しい状況になるのか、なったのかを知りたいです。	通所	重心
53	避難所で静かに待てるか不安。福祉避難所に早めに移りたいです。	通所	その他
54	てんかん他持病があるので、常に数種類の薬を飲んでます。薬は常に先口から飲んで、余ったものも保管してありますが、災害時、もって避難出来なかったり、足りなかったりすることが出てくると思います。薬が確保できるか不安です。また、てんかん発作等緊急時に病院を受診できるか。	通所	重心

「ぼうさい」検討会・事前アンケート		ライフステージ	障がい種別
55	静かにしていられず昼夜問わず大声を出すなど、災害で避難することになって一般の避難所で過ごすのは無理だと思うので、①福祉避難所なり、②車(自家用車)内泊なりになるかと思えます。市町によっても異なるかもしれませんが。①の場合、どこでも利用可能か。一般の避難所を経由せず、いきなり利用可能か。②の場合、避難所を利用していないと物資(食料・飲料水他)等がもらえない、というようなことを聞いたことがあります。以上2点について、・今までの災害の被災地ではどうだったのか。・居住地(掛川市、近隣市町)ではどうなのか。お話を伺えたらと思います。	通所	重心
56	体温調整ができず、医療的ケアが必要なため地区の避難所で大丈夫か?福祉避難所へ行けばいいのか?それとも近くの老人施設に行くべきか?市立病院の方がいい?移動するタイミングはいつか?	通所	重心
57	災害時に地域の避難場所は分かっているが、実際に子供を連れて行けるのか、避難できるのか不安です。民生委員さんが定期的に家に来てくれて災害時の時のことを伝えてくれていますが、想像できないので、具体的な避難方法とかがわかるとありがたいです。	通所	重心
58	避難所では、感染が心配ですが健常者の方々と分けられて過ごせるのか。長期の避難が予想される場合、健常者の避難所とは違い、できるだけ病院の近くや、看護師等が配備されている所へ向かうべきか。それとも避難所で待機をしていれば、看護師等が来てくれるのか不安です。最低限の持ち物など知りたい。	通所	重心
59	車での避難が難しい場合、避難場所までたどりつけるか不安。	通所	重心
60	食事やトイレのことを考えると地区の避難場所で過ごせるか心配。まずは地域の所に避難して、その後福祉施設や病院へ移れるような体制を取っていただきたい。	通所	重心
61	福祉避難所に避難できるまでの流れについて、具体的に知りたいです。福祉避難所での避難が適当と思われる人を事前に登録しておいて、スムーズに移動できるようにして欲しいです。	通所	重心
62	福祉避難所の利用条件・基準はどうなっていますか?	通所	重心
63	子供が重くなったので連れて行けるか。鼻チューブを入れてくれるか。音に敏感なので、みんな一緒に生活できるか。	通所	重心
64	毎日服用している薬があります。災害によって、その薬を持ち出す事等が出来なくなった場合、どうすれば良いのか(常時防災用として持ち出すカバンに一週間程の薬を用意しています)。	通所	重心
65	(母子家庭)5年位前12月の防災訓練の時、豊小の防災の外階段を、消防団の人が居て、一つ上の階まで車椅子を運んでくれました。3年前の時は参加したのですが、役員の人でも遠くで見ただけだったので、「これはダメだ」と思い帰りました。今思えば、こちらから近づいて、頼めば、手伝ってくれたかもしれません。その時の感情が、本当に津波が来たら、自分の事で皆精一杯で、車椅子を運んでもらう事は無理だろうなと思い、津波シェルターを購入することで、自分の不安が、少しは減りました。私は、二男を散歩やお祭りの時等連れて出ているのですが、TVで放送しているような、市や地域の取り組み(避難困難者への配慮)は全く感じられません。隣・近所との人間関係も希薄になっていますし、2階にいる長男家族にも遠慮もあり、孫もまだ小さいですし。	通所	重心
66	こだわりが強く、外へ出るかむつかしく、怖い事がわからなくて、避難がむつかしい。どおしたらいいのかわからない。	通所	知的
67	災害時、多くの方々が大変な思いをしている中、障がいがあるとどうしても孤立してしまうと思いますが、あまり障がい者の方の災害時の様子が見えてこないのが心配です。現状をもっと知りたいです。本人のどのような形で「防災」を意識させると良いのか知りたいです。	通所	知的
68	行政は地域の避難所に障がい者の為の部屋を用意して頂いているが、様々な障害をもった方と一緒にその場で過ごす事が出来るか、不安に思っている。	通所	知的

「ぼうさい」検討会・事前アンケート		ライフステージ	障がい種別
69	防災時、発作が出た場合、どのような対応や対処をしていけば良いのでしょうか？	通所	知的
70	常時服薬している薬が、災害がおこった場合、継続して服薬することが出来るか。	通所	知的
71	被災地での重度障がい者の実状(避難所で暮らせない方が、どう生活していた・しているのか。その為に、どんな備えがどのくらい必要か。福祉避難所の様子…登録している事業所が、実際開設できたのか。スタッフさんは、どのように避難所での支援にあたっていたのか。ご自分も家庭が被災していると思うので、交代で支援に入ったのか等、具体的に知りたいです)。	通所	知的
72	住んでいる所の避難所は遠くて坂道があり、その場所に避難する人数も多いので、車椅子での生活、トイレの問題等不安です。家でも少しずつ、防災用品を用意していますが、こんなものがあったら便利とか、必要な物を教えてもらいたいです。	通所	身体 その他
73	防災の事しっかりと話し合っておかないと大変な事ですね。色々皆さんと集まって下さい。お願いいたします。	通所	その他

## みんな集まれ！中東遠圏域・「ぼうさい」検討会 参加申込書アンケート

1. 事前アンケートでも伺っていますが…「これを教えて欲しい!」という事があればお書きください。
  - 1 先日の台風の際の停電、断水時の対応で困った点、工夫したことがあれば(事業所、家庭)
  - 2 普段服用している薬が確保できるか
  - 3 一般の避難所を利用していなくても、物資(食料・水他)はもらえるのか
  - 4 今回の数日続いた停電。工夫した事、日中にやっとくべきことなど気づいたこと、予想・備えと実際とのちがいなど体験した事があれば教えて欲しい。
  - 5 最近、台風・大雨で避難準備情報で「障害…避難を始めてください」と流れるが、「タイミング」が難しい…大雨の中避難するより、自宅で過ごせるのなら…今年も何回か聞いたが、開所してどのくらいの人が集まったのか…市町で違うとは思いますが。
  - 6 今回、台風で停電が続き、入浴面で心配だなと感じました。公共の大浴場は利用できないので、福祉施設のお風呂を利用できたらうれしいと思いました(入浴サービスではなく、場所の提供をしていただきたい)。
  - 7 発電機や吸引(手動)などお勧めがあれば教えて欲しいです。
  - 8 導尿の品物が不足したらどうすればよいか
  - 9 今までにサバイバルキャンプ等で出た課題やその解決策
- 10 先日の台風で電気・水道が3日間とまりました。太陽光があったのでポットで湯はわかせたけど…オール電化だったのでガスもなく食事・ふろなど大変でした。蓄電機欲しいです。ガソリンは前月に満タンにしたので買出しなど安心してできました。風見のお風呂でシャワーが使えました。Lineで(肢体ライン)いろいろ情報教えてもらいたすかりました。
- 11 水は近くの公会堂で出たので良かったのですが、くみに行くのが大変。トイレも浄化槽の電気がないと使えないし、水もタンクに入れないと流れないし…。こどもの世話もありとても大変でした(学校も休みだし)。学童さんには本当にお世話になりました。又近所の方にもいろいろお世話になりました。
- 12 水は折りたたみのタンクがもう少し欲しいです。
- 13 洗濯ができないとは思ってなかったので盲点でした。コインランドリーもお休み。信号もついてなくてこわかったですが「ゆずりあい」を久々に見た感じでした。
- 14 自分も大変だけど少しでも余裕があれば、周りの方に声をかけていくと良いかとも思います(水が余ってるよ、とか電気



日中だけなら充電できるよ、とか)。

- 15 今回、ガス・水道・電気がなかったけど、これで地震だったらどうなるのか?と思った。今までの「備え」を見直せて良かったです。
- 16 食糧買うのにお金がたくさん必要だった。炊き出しが欲しかった。
- 17 コンビには電気もないのに物を売ってくれて助かった。しかし、となりの市に行ったらパチンコ店などやっていたり、物もあたりまえのようにあったりして、複雑だった。大変だからと楽しみを自粛することはないけど、「疎外感」って、きっとこんな感じなんだって分かったのはある意味良かった。
- 18 手が洗えず、ガサガサになってびっくりした。  
ふろに子どもを入れられないのはつらかった。子どももしゃべらないけど、暗い中で食事をしなくてはいけないなどいつもとちがうので、不安定になり泣いたり、寝付けなかったり…知ることが出来てよかった。
- 19 市のメールサービスに入ってなくて情報が入らず、近所の人からおしえてもらってあわてて入った。反省。
- 20 原発はいるの?って思った。送電線があり、小さな自然エネ発電所があっちこちにあればもっと早く電気来るかなと思う。
- 21 胃ろうや経管の人に備蓄食を準備する時にどういうものが適しているか、教えて欲しいです(通所施設で緊急避難的に使用する物で6ヶ月~1年ぐらいの保存が利くもの)

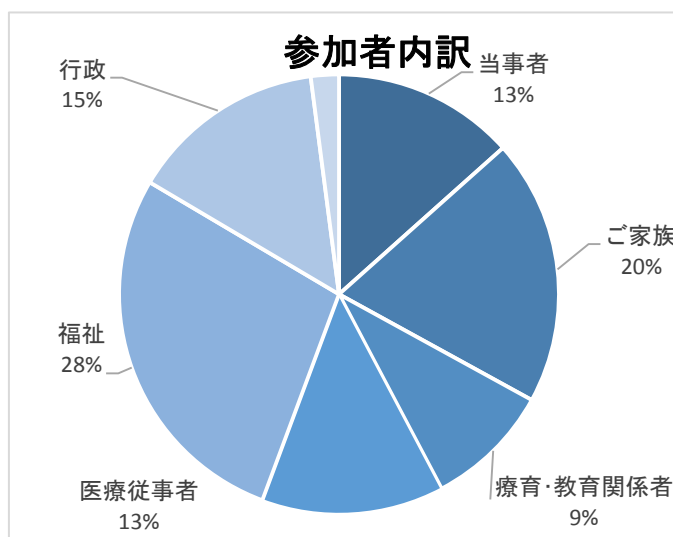
## 2. 防災について「これは良かったな」という工夫やつながりがあれば教えてください。

- 21 発電機を用意してよかった。
- 22 先日の停電で3日間過ごしましたが、車からコンセントになるインバーター大活躍しました。
- 23 オムツやおしりふきは備蓄してあったので心配なかった。
- 24 ランタン型の電気を買おうと思います。手回しのラジオ+電燈は思いのほか便利でした。電気ポットはもう一つ欲しい位でした。
- 24 先日、台風で停電した時に自治体でもらったラジオがとても役に立った。
- 25 冷蔵庫の中はキャンプ用の保冷剤が長いこと冷えていて助かった。

## 平成30年度・みんな集まれ!「ぼうさい」検討会 参加者内訳

### 1. 参加者内訳(立場)

当事者	13	32
ご家族	19	
療育	5	65
教育	4	
医療	13	
福祉	27	
その他	2	
行政	14	
合計	97	

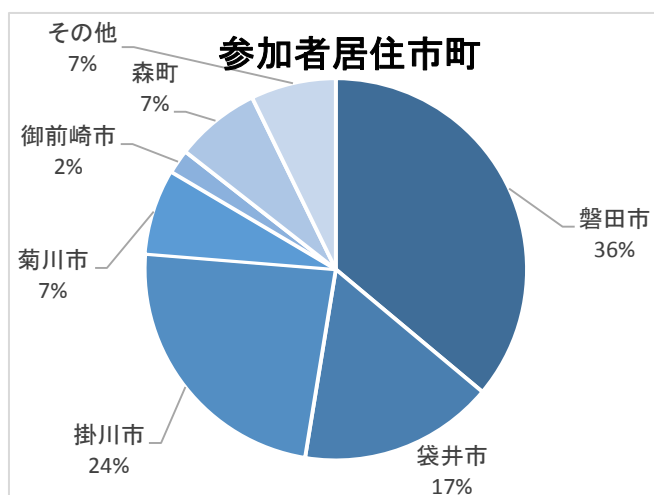


全部記入したらチェック

その他: 支援者の子ども・見学者等

### 2. 参加者内訳(居住市町)

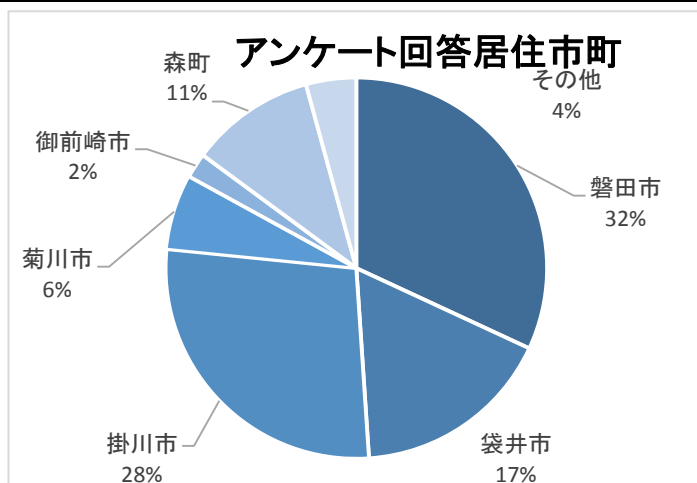
磐田市	35
袋井市	16
掛川市	23
菊川市	7
御前崎市	2
森町	7
その他	7
合計	97



## 平成30年度・みんな集まれ!「ぼうさい」検討会 アンケート結果

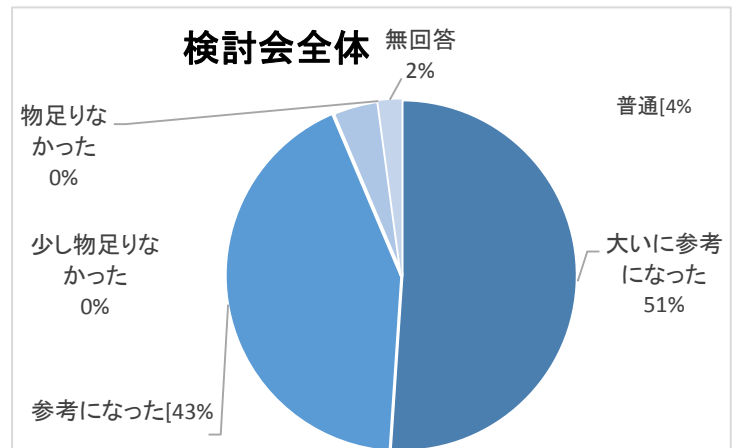
### 2. お住まいの地域を教えてください。

磐田市	15
袋井市	8
掛川市	13
菊川市	3
御前崎市	1
森町	5
その他	2
合計	47



### 3. 本検討会全体について、いかがでしたか？

大いに参考になった	24
参考になった	20
普通	2
少し物足りなかった	
物足りなかった	
無回答	1
合計	47



#### < 当事者・御家族 >

- 1 防災について先日3日間停電したこともありとても興味深くお話を聞くことができました。
- 2 もっと時間があればと思うくらいでした。
- 3 下記4・5含めいろんなお話を聞いて自分は？我が家は？地域としては？といういろいろ考え、感じるが多かったです。地域など自分からも発信しながらもう一度災害対策を考え見直していきたいです。
- 4 子供が場になれず泣いてしまいすみません。
- 5 最近自然災害が多く、関心が高まる中、参考になりました。
- 6 いろいろなお話が聞けて、とても勉強になりました。家の非常食が全く準備できていないので、早めに準備したいと思いました。学校の先生や福祉関係の方、行政の方と、たくさんの方が今日の会に参加してくれて、みんなが子どもたちの事を考えてくれていることを改めて知ることができました。感謝です。
- 7 SNSでのつながり、情報発信が出来るといいなと思いました。
- 8 皆さんたくさん集まってくれて、停電のあとでもあり、良かったと思います(身につまされましたね)。
- 9 後半が意見が聞けて良かった。

#### < 療育・教育 >

- 10 今回は停電ですみましたが、重なっての被害が起きる前に今、考えておかなければいけないことをしっかりひとつずつ答えを見つけていきたいと思いました。そしてまた考える…ことが大事ですね。
- 11 台風24号の影響が最近にあったので、改めて防災について考える機会になっていました。タイムリーな話題なので、より考えていかなければいけないことが多くある為、とても参考になりました。
- 12 福祉避難所として、めばえも掛川市から指定を受けているようです。是非、当日から受け入れができるような設備を整え、受け入れるべき、と思いました。
- 13 防災に向けての取り組み・課題を知ることができた。
- 14 いろいろな方のお話しが聞けてよかったです(人工呼吸器の方、ケアの方、ケアのない方、行政の方)。福祉避難所に直にいけない理由、仕組みはよくわかったが家にいられなくなった場合どうすればいいのか。現実的に対策を考えて欲しい。

#### < 医療関係 >

- 15 防災に関して、自分ができることをもう一度しっかり考え直す機会を頂きました。今日聴いたことを参考にさせて頂きたいと思います。
- 16 自分ももっともっと防災について考え、備えなければいけないと思いました。
- 17 東日本大震災の話聞き、これからの災害に備えて、災害が起きたときの対応を具体的に学んでいく必要があると思った。

#### < 福祉事業所 >

- 18 様々な立場の人の意見を聞くことができよかったです。障がい者(当事者)の意見がとても重く残りました。
- 19 この前の停電時、人工呼吸器等電源が必要な子ども達にどのくらいの物があつたらいいのかよくわかりました。
- 20 事業所での防災訓練、備蓄品が不足していると感じました。急ぎ、色々な想定をした防災訓練と、備蓄品の追加をしようと思いました。
- 21 講演・実践報告、共にとても参考になりましたし、今後、早急に考え、実践していかなければいけないと思いました。

22 ぼうさいについての取り組み、福祉避難所・防災グッズについて改めて考えなおされました。

<行政・その他>

- 23 当事者さんの方々、医療、福祉、行政が集まって、防災について検討するキカイはほとんどなかったと思います。このような現場の話を行政が、生の声としていただくことは、とても今後の対策を考えるにおいて必要なことだと思いました。
- 24 重心の方の視点が新たな気づきを与えてくれ、大変参考になりました。
- 25 障がい者(子ども)の存在の気付き(災害弱者として)
- 26 今後の対応に生かしていければと考えます。
- 27 当事者の方の意見を直接伺う機会がなかったので、今回の検討会で改めて、当事者の方と一緒に考えていく必要性を感じた。

#### 4. 講演「防災に関する浜松での取り組み」の感想を教えてください。

<当事者・御家族>

- 1 キャンプ等いつかは参加してみたいなと思いました。
- 2 自分の市はどうなのかなと思いました。
- 3 個人的に反省する事が多く、これからじっくり考えます。
- 4 今回の停電で準備不足だったことを痛感したので前もって練習体験することはとても大切だと思いました。中東遠地域でもぜひやっていただきたいです。
- 5 さんぽの会で、遠藤先生からお誘いいただきましたが、まだ一度も参加したことがありません。先日の停電の時もいろいろ課題が見つかり、とても不安です。今日お話を聞かせていただき、パンフレットも見せていただき、とても勉強になりました。ありがとうございます。パンフレットにのっていた非常食がうちの子に向けたものがあり、ぜひ購入したいと思いました。
- 6 実践的なサバイバルキャンプのお話が良かったです。家庭でできる事をしていきたいと思います。
- 7 たくさんの写真や具体的な事例が多く、今まで色々な取組をされていたのは存じ上げていたのですが、たいへんわかりやすかったです。ありがとうございます。
- 8 病院の先生達を中心になって、こういうキャンプを始めて下さって、ありがたいです。事前の訓練は必要ですね。
- 9 サバイバルキャンプは、参考になりました。

<療育・教育>

- 10 サバイバルキャンプを行っているいろいろな課題を上げることができたり、体験できたりすることはとてもよいと思った。
- 11 未来TALKのキャンプになかなか参加できないのですが、今度はぜひ参加し勉強させてもらいながら自分の事業所の取り組みにいかしたいと思います。
- 12 興味のあったサバイバルキャンプの様子を見る事ができて、とても良い機会になりました。ぜひ参加して見たいと思いました。少しでも知っている事が増えたら、支援や実際にも使えると思うので…
- 13 「あそびはくすり」災害時の生活の大変さに目が行きがちだが、子ども達と関わる職種ならではの視点に気づかされた。

<医療関係>

- 14 先進的な取組みが聞けて、とても参考になりました。活動を続けていく事は、かなり大変かなと思います。苦勞したことなども聞いてみたいです。
- 15 サバイバルキャンプについて詳しく知ることが出来ました。自分も参加や周りに知ってもらえるように広めていければと思います。
- 16 毎年サバイバルキャンプを開催していく中で、実践していく事で、気づくことは多いと感じた。
- 17 キャンプなどの試みの実際を知ることが出来てよかったです。磐田でもできるといいなと思います。
- 18 浜松市で防災に関して計画的に行っている事を知り、他の市町村でも災害に対して計画的に、進めていくことが必要だと感じた。
- 19 未来TALKさんの6年間の工夫を知ることが出来て良かったです。

<福祉事業所>

- 20 被災した時に役立つワークショップの内容がよかった。すぐに対応できる、今すぐに準備する物の参考になった。
- 21 サバイバルキャンプ等を行うことによっていろいろな問題点等がリアルな型でうかびあがってくると思い

ました。

- 22 サバイバル・キャンプの開催がすごい。
- 23 東日本大震災の物資運搬のリレーの話聞き、やはり最後は人の力、助ける気持ちが大きく動くのだと思いました。自分も、その時が来たら動ける力になれるようになりたいと思いました。
- 24 サバイバルキャンプとても参考になりました。
- 25 サバイバルキャンプでの取り組み素晴らしいです。ぜひ私も参加して体験してみたいなと思いました。
- 26 タイムリーな講演であった。具体的な取り組みについて考えて生きたい。特に停電時の対応は参考になった。
- 27 近隣の市の取り組みで、医療が主体で訓練や体験を行っているのはとても興味を持つことができた。
- 28 実際に体験する事の大切さを感じました。障害を持つ人、家族だけでなく、支える側にもわからないことが多いと思う。

#### <行政・その他>

- 29 とても楽しくお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。市からも、このような活動をされていることを、保護者さん方に伝えたいと思いました。防災についてももっと勉強しなくてはと感じました。
- 30 本市にはない取り組みが色々と紹介され参考になりました。
- 31 障がい者に対する支援をしてくれる人材の掘り出し、育成の大切さ、必要性を感じた。
- 32 サバイバルキャンプは、子どもたちが遊びながらも学ぶ事が出来る良い試みだと思った。
- 33 大変先進的な取り組みのお話を伺いました。中東遠圏域でも広がればと思いました。
- 34 今後、掛川特支での防災キャンプ・避難所体験の実施を検討していきたいと思います。
- 35 サバイバルキャンプはとてもいい取り組みです。当市でも事業所単位で実施をしてくれているところがあります。もっと広げていければと思います。
- 36 サバイバルキャンプについて、毎年同じ会場・内容ではなく、毎年の積み重ねを大事にしているところがとても良いと感じました。

### 5. 実践報告・トーク「志太榛原圏域の取り組みを聞き、この地域を考えよう」の感想を教えてください。

#### <当事者・御家族>

- 1 電話で連絡する事を想定しているという言葉が印象的でしたが実際電話だけでなく携帯の電波すらうすくなってしまったのをけいけんした為それは難しいのでは?と思いました。
- 2 地域に関わる事の大切さを実感しました。
- 3 こんな試みが広がるといいなと思います。みんなの協力が無いと実現までに時間がかかりそうです(急がなくてはいけないのに)。
- 4 地域の防災訓練に1度も参加したことがないので参加して近所の人地域の人に知ってもらうのが大切だと思いました。
- 5 難しいお話でしたが、みんながいろいろ考えてくれているということが、よくわかりました。本当にありがたいです。
- 6 各市町で色々な取り組みをしていただいているととてもありがたいなと思いました。
- 7 すでにいろいろ取り組まれていることをたくさんおうちがいできてありがたかったです。友だちがいちいちの会に入っています。お母さんたちのパワーをぜひとりくみを進める力に変えて進んでいってください。また教えていただきたいです。
- 8 それぞれの市町での取り組みが大きく、参考になる事が多かった。消防の方にも関係性を持っていただいているのは大きな助けになるのでは…。

#### <療育・教育>

- 9 保護者の方々から「自助していても難しい」というお話を伺いました。自助は少しずつされているのだと思いますが、幼児期の私達がどう発信していくか…新しい課題をもらったように思いました。
- 10 各市町の防災についての考え方を知っておく。そこから出てくる課題に対して考えていく機会がこの圏域でも定期的に行われていくことが必要なのだろうと感じた。
- 11 住んではいませんが別地域の事を知る機会となりました。各市町の取り組みだけでも、まだ充分でなかったり難しい事が多いのだと改めて思いました。
- 12 現状を知ることができました。
- 13 地域差があることがわかった。
- 14 大きな病院や施設がない、ということ(中東遠地区との共通点)をどうしていくのかというところの話も

ききたかった。

#### <医療関係>

- 15 各自治体が、それぞれ色々な取組みをされている事がわかりました。自分の地域のことを、もっと知らなくては、と思いました。
- 16 他地域の取組みを知ることができ、ぜひ参考にさせて頂きたいと思います。
- 17 課題となることはどこの地域でも同じではないか。連絡のとり方も考える必要がある。
- 18 地域の取組みを知ることが出来てよかったです。

#### <福祉事業所>

- 19 地域のつながりの大切さを痛感しました。
- 20 他地区のお話が聞けて、参考になった。
- 21 市町により、多少、対応に違いがありますが、ほぼ対応は同じように感じました。実際の災害が起こった時に、当事者の方々が困らない様、機能してほしいなと思いました。
- 22 本気で考えていかなければいけないと思いました。私たち事業所も、福祉ひなん所に指定されているので、今回の検討会の内容を持ち帰り、しっかりと活用できるようにしたいと思います。
- 23 実際に今回の停電で、備えの大切さを感じた。発電機・蓄電池の必要性を感じた。しかし、発電機の音など被災した時の実際などもよく分かりました。人々とのつながりの大切さを感じた。
- 24 まだ今後の問題について情報を集めている段階であった。
- 25 市町の考え方、取組み方の報告をする機会があるのは良いと思った。
- 26 様々な市町での取組み状況が聞けて参考になった。同時に現状では災害時不安なことが多いと思う(親同士のコミュニティがある人は助かったと話があったが、低年齢のお子さんを持つ家はそういう物が少ないので困ってしまうのかと思った)。

#### <行政・その他>

- 27 それぞれの市町、当事者、福祉支援の方々など、多くの意見をきくことができてよかったです。
- 28 当事者、ご家族の方の意見お聞きでき貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- 29 まだまだいろいろな課題があることに気付いた。今後もしっかり取組まなければならないと感じた。
- 30 他市町の取組みがわかり、参考になった。
- 31 地域によって状況は違うと思うので、それぞれ工夫して取り組む必要性を感じた。
- 32 医ケア児の受け入れに関しては、当地域の方が若干進んでいます。実際どのようにされているのか気になるところです。今後の大きな課題です。
- 33 福祉避難所のあり方について、見直しが必要であると感じました。
- 34 東遠重心で、要配慮者名簿に登録に消極的な方もいるというが、人とのつながりがいざという時に一番頼りになるなあと、改めて感じました。

## 6. 今後圏域の重心部会で行ったらよいと思う活動や、日常生活や支援の中で思う事等、ご自由にお聞かせください。

#### <当事者・御家族>

- 1 本日もたいに勉強になる会を今後も行って欲しいです。
- 2 皆で話し合い、考えを出し合い、どれからか1つでもまず実行できればと思いますが親の体力が追いついていけなくなっているのも心配です。どこまで子供を守りきれるか…。
- 3 ふくしひなんじょが少しでも多く出来たらと想いました。医療的ケアがある子に対しての施設などもう少しできてくれると嬉しいです。
- 4 色んな市の役員の人や先生たちが自分が思ってる以上に考えているんだな～ってうれしく思いました。
- 5 今回たくさんの方々がかどもたちのためにご努力されて、このようなすばらしい会を開いてくださいました。ありがとうございます。先日のボウリングや食事会も大成功でしたし、イベントをしながらたくさんの人と知り合って、それが助けあう力になると思いました。災害のときにはどういう連絡方法が最良か、というのは課題ですね。
- 6 高齢にかこつけて情報が得られないと言っている場合ではない。自助もしているが、もっと努力していかなければと思う。
- 7 継続して考えて、検討会を続けてください。

#### <療育・教育>

- 8 保護者の声をひろい、重心部会での検討されていくことが大切ですね。圏域に限らず、各市町、行政・当事者・支援者で話ができる機会があるとよいと感じます。
- 9 掛川・菊川・御前崎・森町…病院を中心とした、医療・福祉の充実を願うばかりです。
- 10 行政の方にもっと知っていただく機会になる内容。
- 11 浜松の病院に主治医がいるこの地域の子達の生活を支える支援(病院の連携、ショートステイなど)。

#### <医療関係>

- 12 中東遠地区もサバイバルキャンプを行っていただければよいのかと思いました。
- 13 まずは備蓄。各家庭で出来る限りの準備をしてもらいたいです。発電機等高く購入に至らないのが現状です。その辺りの問題が少しでも良くなればと思います。
- 14 行政との連携も大切と思いますが、身近な人達とのつながりがやはり一番。HPもいざっていうときは、あてになるのかな、と不安ですね。自助努力をまずすすめて。ご家族の方には本当に大変と思いますが。
- 15 普段から出来る準備をしておくことが重要だと感じました。

#### <福祉事業所>

- 16 各市町の防災対策の取り組みについて知りたい。各業種の人たち、立場の違う人達が一緒になって、この圏域の「ぼうさい」について考えることができ良かったと思う。これからも続けて欲しい。
- 17 災害が起こった時、ご利用者も被災者ですが、職員も被災者になります。いざとなった時、何が出来るだろう？何をしたらよいのだろう？と考えても、答えが見つかりません。日頃から災害を想定し「何を？」「どうしたら？」を考えていきたいと思います。
- 18 今回も参加させていただき、ありがとうございました。
- 19 休憩時のスヌーズレン、いやされました。素晴らしい事業所ですね(^)
- 20 実際を体験できる機会がもっとあると良いなと思いました。
- 21 重心部会で対応マニュアル(統一されたもの)があると良い。共助体制がどこまで整っているか、情報を知りたい。
- 22 磐田市でも防災キャンプをやってみたい。福祉避難所や充電可能な場所の地図があるといい。
- 23 病院と自宅だけの生活の子どもたちが、気軽に参加できるようなイベント、そこでいろいろなサービスを知った人と人と知り合える機会が作れるといい。

#### <行政・その他>

- 24 防災については、やりすぎることはないと思います。とても貴重な講演ありがとうございました。
- 25 部会の活動日頃からありがとうございます。行政の取り組みには不十分な点が多々あるかと思いますが改善に努めてまいりたいと思いますのでご支援ご協力よろしくお願ひします。
- 26 定期的な情報交換ができればと思います。
- 27 浜松のようなサバイバルキャンプ…大変だと思いますが、防災・災害支援の団体がたくさんあるので、協力しながらできるかもしれません。

## 中東遠圏域自立支援協議会 重心部会

「みんな集まれ！わくわくボウリング」、

### 「みんな集まれ！『ぼうさい』検討会」開催までの活動記録

- H29.5.16 平成 29 年度第 1 回コア会議開催。第 2 回「わくわく生活検討会」の振り返りを行う。これまで同日に行ってきた「わくわく」と「検討」を切り離し、活動を行う方向性とする。  
家庭医・松田先生の提案による合同研修プログラム(ぴの ほーぷ主催)について、圏域重心部会としても関わって行く。
- H29.7.13 家庭医との合同研修プログラム開催**  
家庭医関係の方にめばえ・掛川特別支援学校・ぴの ほーぷを見学していただき、地域で生活する重症心身障がい児(者)の方の豊かな表情を感じてもらおう。松田先生からは当事者・ご家族 29 名に向け、「地域にかかりつけ医をもとう」という提案をしていただく。
- H29.9.20 第 2 回コア会議開催。中東遠総合医療センター・岩島先生との面談について報告する。「わくわく」「検討」について意見交換。開催時期を暖かい 5 月～9 月に設定する事とする。当事者の方が参加しやすい条件・内容、支援者が当事者と一緒に考えたい「検討」を各々考え、次回コア会議で話し合うこととする。
- H29.12.15 第 3 回コア会議開催。「わくわく」に関して、「無理なく・楽しく・外出体験」をキーワードに、雨天でも行えるイベントを考える事となる。「検討」に関して、防災について考える機会を作る。  
準備委員会について、委員を限定せず、コア会議参加資源に幅広く声を掛ける形で進める。  
県が和松会に委託して 1 月に行う「多職種連携研修」について報告。圏域重心部会事務局として委託を受けたと捉え、協力していく。
- H30.3.7 第 1 回準備委員会兼コア会議開催。「わくわく」について、平成 30 年 7 月 28 日(土)、袋井グランドボウル+食事会を行う。  
「検討」について、はままつ友愛のさと・遠藤 Dr.、浜松医療センター・宮本 Dr.による講演を行い、その後行政も含めて話し合いをする流れを検討する。
- H30.5.9 第 2 回準備委員会兼コア会議開催。「検討」部について、10 月 20 日(土)



にあにまあとを会場に行く方向性とする。事前アンケートを行い、障がいを持たれている方幅広くの意見を吸い上げ、講演に反映してもらう。

H30.7.17 第3回準備委員会兼コア会議開催。「わくわくボウリング」参加人数確認。食事会参加人数が予想よりも多く、会場を「どんどこあさば」に変更する。「ぼうさい」検討部後半について、志太榛原圏域の取り組み報告を行い、その後フロアを巻き込んだトークを行う方向とする。

H30.7.28 台風12号による影響を受け、「わくわくボウリング」を9月8日(土)に延期する。

H30.9.4 第4回準備委員会兼コア会議開催。「わくわく」部について、最終確認を行う。「ぼうさい」検討会について、志太榛原圏域の報告者が志太榛原圏域SV・岡村さん、焼津福社会・八木さんに決定する。当事者の方も楽しめるよう、スヌーズレンを合間に披露する内容を設ける。

### **H30.9.8 「みんな集まれ!わくわくボウリング」開催!**

H30.10.16 第5回準備委員会兼コア会議開催。「ぼうさい」検討会の流れの最終確認を行う。地域の方に知ってもらう意味を含め、報道関係に投げ込みしていく。

### **H30.10.20 「みんな集まれ!『ぼうさい』検討会」開催!**

※ 事務局会議はコア会議前後に随時開催。

コア会議参加資源の皆さんの積極的な参加、貴重なご意見を複数回にわたって頂き、今年度の開催に至ることができました。この場を借りて当事者の方・ご家族、参加資源の皆様に感謝申し上げます。